

いわて幸福白書

2023



第1部

令和5年の幸福トレンド

【対談】

誰もが活躍し、幸福で持続可能な
地域社会を実現するための方策

元厚生労働事務次官 村木 厚子 氏 × 岩手県知事 達増 拓也

幸せな地域づくりに必要なものとは

慶應義塾大学大学院 教授 前野 隆司 氏

幸福度を高める身近な取組

大谷翔平選手の応援を通じて
ふるさとが一丸に

大谷翔平選手ふるさと応援団

佐渡裕さんとのつながりに支えられながら、
音楽を生かした地域振興に取り組む

大槌町 吉祥寺 住職 高橋 英悟 氏

第2部

「希望郷いわて」の今

第3部

データ編



岩手県

岩手県の総合計画「いわて県民計画（2019～2028）」は、広く意見をうかがいながら、「オール岩手」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、NPOなど多様な主体が10年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

岩手県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。

「いわて県民計画（2019～2028）」のもと、こうした復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的・経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切にしながら、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策を推進し、東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。

「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今後の方向について広くお伝えするものです。

岩手県の人口は平成9年（1997年）以降減少を続けており、近年では、全国的に東京一極集中に歯止めがかからない中、新型コロナウイルス感染症の影響により、地方移住への関心が高まる一方で、婚姻件数や出生数が減少しており、負の影響の長期化が懸念されています。

令和5年（2023年）3月策定の「いわて県民計画（2019～2028）」第2期アクションプランでは、人口減少対策を最優先で取り組むべきものと位置付け、オール岩手で対策を進めていくこととしています。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスをつかるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。





みんなの健康を支えること



仲間と一緒に頑張ること



孫と一緒に遊ぶこと



家族と笑顔で過ごすこと

希望郷いわてが目指す 新たな「幸せの形」



この子の未来を守ること



たくさんのお客さんに会うこと



夢に向かって努力すること



P.2

はじめに

P.5

第1部 令和5年の幸福トレンド

大学教授等の有識者から、幸福に関する国の動きや最新研究等も踏まえ、令和5年の幸福トレンドについて論じていただきます。

対談「誰もが活躍し、幸福で持続可能な地域社会を実現するための方策」

元厚生労働事務次官 村木 厚子 氏
岩手県知事 達増 拓也

「幸せな地域づくりに必要なものとは」

慶應義塾大学大学院 教授 前野 隆司 氏

幸福度を高める身近な取組

幸福度を高める身近な取組として、県内出身スポーツ選手や全国的に著名な方を応援している方などを紹介します。

「大谷翔平選手の応援を通じてふるさとが丸に」

大谷翔平選手ふるさと応援団

「佐渡裕さんとのつながりに支えられながら、音楽を生かした地域振興に取り組む」

大槌町 吉祥寺 住職 高橋 英悟 氏

P.25

第2部 「希望郷いわて」の今

“県民の幸福感の現状”として、県民意識調査の調査結果を紹介します。また、“県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果”として、「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる10の政策分野の政策評価結果を紹介します。

P.57

第3部 データ編

第2部で使用したデータを一覧で紹介します。



第1部

令和5年の幸福トレンド

幸福度を高める身近な取組



「岩手県 | 軽米町 | フォーリストパーク軽米」

いわて幸福白書2023



村木厚子

元厚生労働事務次官



達増拓也

岩手県知事

||| 対談 |||

誰もが活躍し、幸福で 持続可能な地域社会を 実現するための方策

若者、女性、高齢者、障がい者といった、様々な人が暮らす社会における行政の役割、地域共生社会づくりの方向性、人口減少対策などを元厚生労働事務次官の村木厚子さんと達増拓也知事に語っていただきました。

— 国と地方の役割について、お考えをお聞かせください。

村木元次官 厚生労働省では若干残念なことでありますが、職員みんな、自治体に出向したいという思いが強いんです。国全体の枠組みをつくるという意味では、すごくやりがいを感じているし、大事だと思っているのですが、これで本当に良いかって思った時に、確かめる術はやはり現場にしかありません。こういった政策が正しいのかと思った時に、現場へ行かないと、実感が持てないということがあります。その実感を持ちたいから自治体へ出向したいと、みんな思うのだらうと感じます。良い政策をつくりたいならば、現場の感覚を持つことはとても大事で、現場に出たいという職員がたくさんいるということは、健全だと思います。どんなに国で政策の枠組みをつくっても、結局それが、一人ひとりに届く場所は自治体。国民と政策の接点は自治体ですから。

達増知事 岩手県では、東日本大震災津波の経験から、災害などで市町村の行政機能が停滞した場合には、平時の役割分担を越えて、

県が市町村を支援することが重要であることを学びました。私が知事になってからは、非常事態が続いており、市町村に寄り添い、市町村目線で役割を果たしていくことが必要な局面であると感じています。国との関係では、逆に、国の制度では補いきれない支援策の創設や大型復興事業の提案など、被災地の人々の暮らしや仕事を起点に国の役割にも関与しました。岩手県では、東日本大震災津波の経験に基づき、いわて県民計画(2019~2028)を策定していますが、被害の大きさと犠牲の多さを見つめるところから、二つの復興の基本原則を定めています。一つは、犠牲になった方々の故郷への思いを引き継ぐということ、もう一つは、被災された方々の人間らしい暮らし、学び、仕事を確保し、自らの幸福を追求できるようにすることです。幸福追求権という言葉は、日本国憲法にもある言葉で、さかのぼると、アメリカ独立宣言にもある言葉ですが、いわば民主主義の原点であり、それをいわて県民計画(2019~2028)にも反映させて、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の

実現を目指して、県民の幸福度を高めることをミッションにしています。

— 政策を推進する際、どのようなことを重視していますか。

達増知事 原点は、東日本大震災津波とそこからの復興にあります。復興とは突き詰めると、「一人一復興」であり、一人ひとりが住みたいと思うところで生活を再建したり、やりたい仕事が軌道に乗ったり、学びたいことが学べるようになるということだと思います。県政全般についても、一人ひとりに着目し、岩手県民一人ひとり、岩手に関わる人たち一人ひとりが、岩手をベースにして、暮らし、学び、仕事において、いかに幸福を追求することができるかということが問われています。近年、地域共生社会という理念が発展しています。医療・介護の分野では、地域の中で、色々な専門家が一人の個人をケアするというような行政に変わってきています。産業分野でも、若者の起業・スタートアップなど、一人の個人を、地域で、そして専門家が集まって、エンパワーをすることが求められています。「幸福」というキーワードで、「一人ひとり」ということを行動原則にしていくことが社会的包摂であり、SDGsの理念である「誰一人として取り残さない」ということにもつながると考えています。

村木元次官 「一人一復興」、すごい言葉ですね。2014年に国際社会で初めて登場した言葉があります。「包摂的成長」です。この言葉

村木 厚子

むらき あつこ

元厚生労働事務次官、津田塾大学客員教授。1955年高知県生まれ、高知大学卒業。1978年に労働省(現・厚生労働省)入省、女性政策、障がい者政策などを担当。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長、内閣府政策統括官(共生社会政策担当)、厚生労働省社会・援護局長を歴任。2013年に厚生労働事務次官就任、2015年退官。困難を抱える若い女性を支える「若草プロジェクト」呼びかけ人。





「一人ひとり」を
エンパワー
することが
幸福につながる



をG20で初めて聞いた時に、本当に感激しました。リーマンショックの後、どの国も経済の再生に苦勞してきた中で、うまくいった国とうまくいかない国がありました。女性とか、障がい者とか、長期失業の若者とか、いわば弱いと思われる人々を上手に社会の支え手として、彼ら・彼女らが活躍できる場所、雇用の形などをきちんとつくれた国の経済成長が長続きしたとレポートされました。弱者を助けるということも大事だけれど、それだけじゃなく、一人ひとり、そういう人たちが活躍できる社会をつくと持続可能になるのだと、私はものすごく感激しました。その後、G20の雇用労働大臣会合のテーマに数年続けて、「包摂的成長」という言葉が続きました。

—— 日本全体で人口減少が進んでいます。その背景と課題をどのようにお考えでしょうか。

村木元次官 人口減少のスピードを決めているのは少子化であり、

そこに本気で取り組まなければなりません。これは、私たちが思っている以上に大きな危機で、かつそれが人口減少にも高齢化にもつながっていて、一番大きな元になっている、ということを実感しなければなりません。結婚や出産は、個人の人生の選択だと言われていて、確かにそのとおりですが、社会が違ったら生めるのに、生みたいのにと考えている人がたくさんいるという現状を、国も自治体も真剣に考えなければならないと思っています。

達増知事 本当は結婚したい、出産したいけれども、様々な困難があってできない、子育てがしにくい、あるいは、地方に職がなく、働こうと思えば都会に出なければならない、といった「生きにくさ」を「生きやすさ」に変えるというところに、政策を集中させ、力を入れていかなければならないと考えています。そうすると、やはり一人ひとりをエンパワーするような政策が必要であり、そういった政策

を中心に人口減少対策を組み立てていくことが求められています。

—— 人口減少対策の推進に当たり、働きやすさ、生み育てやすさの実現という観点からお考えをうかがいます。

村木元次官 まず、職場全体の働き方です。カップル2人で働いて、2人で育てるということをしてどのようにして企業が支えてあげられるかということが大事になってきます。働き方改革もあるし、労働生産性の向上もあるかもしれません。テクノロジーを使って仕事を合理化するとか、在宅勤務などをうまく使って柔軟性を高めるとか、色々な要素があると思いますが、一人ひとりの都合に合わせて、誰もが能力を發揮できる職場づくりが求められる時代が来たのだと思います。また、職場に色々な人がいるという状況に、日本の職場が慣れなければならないということがあります。今までであれば、女性とか、子育てをしているとか、親御さん



異質の人から 地域の新しい 動きが生まれる

の介護を抱えているとか、病気があるとか、障がいがあるということは、みんなが同じようにやらなければならないという、日本的なルールのもとではハンディキャップだったと思います。これからは、異質の人が入ってくるということが大事です。例えば、農福連携では、障がい者の雇用をきっかけに、高齢者でも働ける、女性で力がなくても働ける、ユニバーサル農業といった先進的な事例が出てきています。ハンディを持った人でも、一人ひとりが働くことができるようになることで、産業全体が変わっていく、地域の中でそういった新しい動きが出てくるとしたら、相当おもしろいと思います。

達増知事 地域の中で安心して暮らしていけるよう、コロナ対策や物価高対策など、喫緊の課題に取り組み、それを人口の自然減・社会減対策につなげ、GX※1とDX※2が両翼となり、様々な分野の政策を推進していく。このような考えのもと、令和5年度からの4年間を

計画期間とするいわて県民計画(2019~2028)第2期アクションプランはつくられています。東日本大震災津波以降、実際に高校生に会って話をすると、地元のために役立ちたいとか、復興に関わりたいとかという人が多くなってきています。実際、高卒者の県内就職率が上昇し、令和3年度には過去最高となりました。北上川流域においては、自動車・半導体関連産業の工場の立地や拡大など、全国的にも珍しい産業集積と雇用の増加が岩手にはあります。また、県民運動により社会全体の機運を醸成し、安心して子どもを産み育てられる環境の充実に取り組んでいくこととしています。医療費助成の現物給付の対象を高校生まで拡大するなど、新たな取組についても、検討しています。市町村と県が連携して取り組む方向性を、共同宣言のような形で対外的に表明することで、市町村と県が一層連携する姿を、県民、県外の皆さんに示し、オール岩手で人口減少対策を強力に推進していきます。

— 共生社会の実現に向けた岩手県の可能性について、どのような認識をお持ちですか。

達増知事 岩手県では、「いわて女性の活躍促進連携会議」を立ち上げました。その中に「女性の就業促進部会」があり、民間企業の代表取締役をされている佐々木祐子さんが部会長を務めています。部会の意見交換の中で、若年層とベテラン社員との間でジェネレーションギャップがある、性別に基づく固定的な役割分担意識にとらわれて社員の可能性を生かしきれない、ということが浮き彫りにされました。こうした意見交換を踏まえ、企業の経営者や行政に向けた提言をまとめ、その内容を浸透させようと、様々な経済団体等に働きかけています。県では、いわて女性活躍推進員を配置し、女性活躍関連制度の普及拡大を図っています。先ほど農福連携の話があり、素晴らしいなと思いました。岩手県で、障がい者関係の取組として広く知られているのは

※1 GX：グリーン転換。化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させることにより、経済社会システム全体を変革すること。
※2 DX：デジタル・トランスフォーメーション。デジタル化を手段として、既存の価値観や枠組みを見直す変革を行い、課題解決や新しい価値を創造すること。

共生社会の実現と 幸福の追求が できる岩手に



ヘラルボニーという会社です。障がい者アートの作品をネクタイや傘などのデザインにして、障がい者と社会をつなぎ、共生社会の実現に取り組んでいます。この会社の経営者は、「僕らの目標は障がいに対する意識を変えていくこと」と言っていて、障がいを一つの個性と認める社会の実現を目指しています。思えば岩手県では、今から7年前に、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会を開催しました。これを契機に障がい者への関心が高まり、共生社会を進めようというレガシーになっています。

—— 共生社会の実現に向け、どのような活動をされていますか。

村木元次官 障がいのある人たちの中には素晴らしいアーティストがたくさんいます。アトリエインカーブという、アーティストの養成をしている福祉事業所の方々と本を出版したことがあります。タイトルは「カッコいい福祉」にしま

した。最初は、抵抗があるし、業界の人から悪口を言われるじゃないか、福祉はそんなに浮ついたものじゃないぞ、と言われるかもしれないと思いましたが、最終的には、これにしようよとなりました。「だって若い人来てもらいたいよね」「福祉はカッコいいものじゃないけなはずだ」と言って、このタイトルにしました。偏見みたいなものを少しずつ取り除いて、新しい風を起こしてくれる人を大事にしたり、国体などの新しい出社会を大事にしていくことはすごく良いですね。私は、虐待やいじめなどを原因に、非行に走ったり、家出をしたりといった問題を抱える若い女性を支援する若草プロジェクトという活動に携わっています。その中で感じるのは、やはり個人の責任ではなくて、そこに社会のひずみが見えることがたくさんあるということです。そういうところに目を向けていくと、社会全体の在り方みたいなものを少しずつ変えていけるのではないかと

思っています。

—— 共生社会づくりに必要なものについて、どのようにお考えですか。

村木元次官 女性が一生懸命に仕事をするモチベーションとは何か。私が考えたのは、一つ目は「その仕事为社会に役立つかどうか」、二つ目は「その仕事で自分が楽しく働けるか」、三つ目は「その仕事で自分が成長できるか」ということです。こういうことを提供できる社会になるということが、共生社会づくりの一步だし、元気の出る共生社会づくりかなと思っています。職場には、最後に帰る時に、みんなでお疲れ様でした」と言い合う共通言語があります。どんなに年齢が違って、性別が違って、みんなでお疲れ様」と言う。共通言語を持てると、人とつながることが出来ます。共生社会にとって、そういう共通言語を持てる場面を提供できるかどうかということが、大切なんだと思います。同じ合言

葉を持てるということ、それがもしかして共生社会づくりということなのかなって思っています。

達増知事 コロナ禍で、みんなが心配したり、困ったりする期間が3年くらい続いているわけですが、この間に大谷翔平選手が大活躍してくれていて、それはかなり癒しになり、励ましになり、まさに力を与えてもらっています。菊池雄星選手、小林陵侑選手、岩淵麗楽選手、伊藤ふたば選手の活躍もあります。そういう若い人たちの大活躍というのが、岩手県民の力になっています。共生社会という時、まず彼ら・彼女らが、プラスの方向で岩手を一つにまとめる力になってくれています。傑出して成功している人たちと共に喜ぶということと同時に、県内で困っている人たちに、地域として手を差し伸べたり、ケアしたり、エンパワーしたりということをセットでやっていければ良いと思います。そして、いわて県民計画(2019~2028)第2期アクションプランのもとで、やはり一人ひとり、女性であれ男性であれ、障がい

がある人もない人も、誰もが暮らし、仕事、学びのベースとして岩手県を活用して、そして幸福の追求をしていくことができる、そういう岩手でありたいと思います。

—— 県民の幸福度の向上に向けた知事の思いをお聞かせください。

達増知事 世界遺産の平泉文化に象徴される、人と人との共生、人と自然との共生という風土が岩手にはあります。それはさかのぼれば、縄文時代から培われてきたもので、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残した宮沢賢治の世界にもつながっていると思います。こういう共生の風土が、岩手の大地と岩手県民の心に脈々と受け継がれていますので、これを生かして、いわて県民計画(2019~2028)の基本目標にありますように、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を実現していきたいと思っています。

—— 最後に村木さんから岩手県に期待することをお聞かせください。

村木元次官 共生の風土という言葉が出ましたが、岩手県はとても豊かな文化とか、自然とか、人材を持っています。日本全体に少し足りないことがあるとしたら、変化のスピードを速めていくエネルギーみたいなものだろうと思います。今持っているもの、大切にしてきたものに、新しい風を入れていく、それが若者だったり、女性だったり、障がいのある人だったりするでしょう。そこで化学変化が起きる、一種のフリクションが起きる、トラブルが起きる、それを上手に一緒に越えながら、新しいものをつくっていくことができれば、ものすごく豊かないい地域になるっていうことを、今日の対談で実感させていただきました。岩手県には、いい風土づくりを先頭に立ってやっていただきたい。その成果を私が、ほかの地域に広げていきたいと思っています。

(対談日：2023年1月21日)



インタビュアー

小田 舞子

おだ まいこ

「日経xwoman」副編集長、岩手県総合計画審議会委員(2022年~)。1978年生まれ、盛岡市育ち。国際基督教大学卒業後、日経BPに入社。「日経ビジネス」「日経ビジネスアソシエ」編集記者を経て、「日経doors」副編集長。20~30代女性に向け多様な働き方、生き方を提案。「いわて銀河プラザ anecco」のボランティア活動にも精力的に取り組む。



前野隆司

慶應義塾大学大学院教授

Ⅲ インタビュー Ⅲ

幸せな地域づくりに 必要なものとは

ウェルビーイングに関する研究の第一人者であり、幅広い知見と多面的な視野をお持ちの前野隆司さん。なぜ、今ウェルビーイングなのか、どうすれば幸せになれるのか、幸せな地域づくりに必要なものは何か、また、国や自治体の動向、ポストコロナ社会についてお話をうかがいました。

—— 一般の方の中には、幸福の捉え方に違いがあるということ自体に驚かれる人が多いと思います。前野教授が提唱する「地位財」型の幸せと「非地位財」型の幸せの違いをお聞かせください。

前野教授 幸福には、「長続きしない幸せ」と「長続きする幸せ」があります。「長続きしない幸せ」は、「地位財」型の幸せです。金、モノ、社会的地位を「地位財」といい、いわゆる他人と比較できる財を得たことによる幸せは長続きしません。個人で収入を得る方も、まちづくりをする行政の方も、収入さえ多ければいいのではないかと、まちな収入が増えればいいのではないかと、思うかもしれません。もちろん増えるに越したことはありませんが、これだけでは「長続きする幸せ」にはならないということです。「長続きする幸せ」は、「非地位財」型の幸せです。心と体と社会の良い状態、つまり、ウェルビーイングな状態が、長続きする幸せだということをまず押さえておくべきだと思います。

—— 幸せな状態になるためにはどのような因子があるのでしょうか。

前野教授 行政は、その対象として、「体の幸せ」である健康と、「社会の幸せ」である福祉や安全などに注力すると思いますが、もう一つ大事な要素は「こころの幸せ」です。「こころの幸せ」に影響する因子は四つあります。一つ目は「やってみよう因子」。やりがい、夢や目標を持ち、主体的に何かをすることで幸せになります。子育てを主体的にするのと、イヤイヤするのでは全然違いますよね。二つ目は「ありがとう因子」。人とつながり、感謝し、利他的に振舞い、人のために何か役に立つことをすることです。お互いに助け合いやすいまちづくりをどのようにすれば良いかということ、行政と住民が考える機会があると良いと思います。三つ目は「なんとかなる因子」。前向きで楽観的な人は幸せだということです。自分の良いところも悪いところも受け入れ、いかに楽観的に前向きに生きていくかということが大切です。四つ目は「ありのままに因子」。あなたらしく、あるいは、ありのままに人の目を気にしすぎずに自分らしく生きる人は幸せです。政策は、最も困っている人を救うということが目的になるかもしれません

んが、地域や住民、企業などと連携して、前向きに、楽観的に生きる、個性を生かすといったことを普及していくと、更に岩手が幸せなまちになっていくのではないかと思います。

—— 幸福度の向上に向けた自治体や国の動向をどのように捉えていますか。

前野教授 自治体の動向というと、岩手県や荒川区は、本当に先駆的だったと思います。最近では、デジタル田園都市国家構想の指標にウェルビーイングが入りましたよね。まさに、岩手県が先駆的にやってきた流れが、世の中全般に広がってきたということだと思います。行政が個人の幸せの向上に向けてどこまでできるか、という点について、これからのチャレンジは、「楽観的に生きる」「個性を生かす」といった部分にまで、産学官の連携などで何らかの仕組みをつくっていくことだろうと思います。そこまで広げると、主観的な自己実現とか、つながりといった部分が、より豊かになってくるのだと思います。

—— コロナ禍で人と人とのつながりが薄くなったと言われています。このような状況をどのようにお考えですか。

前野教授 つながりが希薄化するの、現代病と言われています。ムラ社会から東京という都会に出て、せいせいしたと思う反面、実は孤独化するのだと思います。一人暮らしや核家族化は、孤立のリスクが高まり、ロンリネス、孤独

前野 隆司

まえの たかし

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント (SDM) 研究科教授。1962年山口県生まれ、東京工業大学大学院修士課程修了。キャノン株式会社、慶應義塾大学理工学部教授等を歴任。2011年4月から2019年9月までSDM研究科委員長、2017年より同ウェルビーイングリサーチセンター長兼任。研究領域は理工学から心理学、社会学、幸福学まで多岐にわたる。





つながりを
深めることで
幸福を高める



を感じやすくなります。つながりがなくなると気楽になった気がするの、本当は間違い。ちょっとめんどくさい、おせっかいな、おじいちゃん、おばあちゃんがいるくらいのほうが、ソーシャル・キャピタル^{※3}が高く、幸せなのではないかと思います。「つながっていくと良いよね」というように、政策が誘導していくのは、これからの時代に大事なことだと思います。

— **ポストコロナ社会の幸福の在り方について、お考えをお聞かせください。**

前野教授 つながりを分断しないようにしていくことです。つながりが希薄化したのであれば、それを取り戻す努力をする、これに尽きると思います。やり方としては、一つはデジタルの活用ですね。もし、高齢者が不得意なのだとしたら、どのようにして高齢者がオンラインでもつながって、安心できるようにしていくか、ということをやすべき

だと思います。もう一つは、リアルで会える場づくり。対策や工夫をして、今まで以上に会う努力をする必要があると思います。何かを待っているのではなく、ちょっと攻めて何かをする必要がある時期まできているのではないのでしょうか。つながりを持ち、人と話せば、やりがいが出たり、何かにチャレンジしたり、個性を発揮したりということが出来ます。「つながり」がキーワードになると思います。

— **コロナによって、つながりの度合いが変化しているとお考えですか。**

前野教授 コロナ禍でより幸せになった人と、不幸になった人がいる、という調査結果があります。残念ながら、つながりが希薄化して孤独感で不幸になる人と、オンラインによって、前よりもより遠くの人と、手軽にコミュニケーションができるようになる人に分かれています。また、オンラインツ-

ルに慣れてきたことで、会社内でのコミュニケーションや、友達とのコミュニケーションが円滑にできるようになったという場合もあります。オンラインをうまく使いこなせてない人を放っておくと分断してしまいますから、使いやすいツールを提供するとか、指導するとか、本来の楽しさをうまく伝える努力が必要だと思います。オンラインを上手く使っている会社などは、オンラインなしにはありえない、今後はハイブリッドしかないと言います。これを地域づくりに応用して考えると、単なるアナログな地域というのはもうあり得なくて、デジタルとのハイブリッドをどういう方法でやっていくか、ということだろうと思います。他の地域との連携、あるいは、岩手県の中でも市町村との連携など、ほかとの交流をつくるのが重要です。また、住んでいる人だけじゃなくて、岩手県のことを好きでたまに来る人とか、あるいは、来ないけれど岩手県のもの食べている人とか、

※3 ソーシャル・キャピタル：交流、信頼、社会参加等の個人間のつながり。

Ⅲ インタビュー Ⅲ 幸せな地域づくりに必要なものとは

そういうネットワークも含めて、まちづくりを進めていく時代になっていくと思います。「まちづくり×デジタル」を更に推進して、おじいちゃん、おばあちゃんも生きやすくしていくということが重要です。

—— 幸福度の向上につながる政策、今後の展開について、アドバイスをお願いします。

前野教授 岩手県に限らず、日本がもっと幸せになっていいのに、ちょっと元気をなくしていると思います。少子高齢化が進む中で、コロナ禍があったり、世界で戦争があったり、嫌なニュースが多い。でも、やはり未来をつくるのは、私たち自身じゃないですか。だから、幸せということを真剣に考えて、やりがい、つながり、創造性をうまく発揮して、みんなでもっと多様に力を合わせていけば、必ず幸せな未来をつくれると思います。幸せな世界をつくるということは、人類の目標であり、それにいち早く挑んできたのが岩手県だと思います。人類の目標をどのように実現するかというフェーズまで、ギアチェンジしていただきたい。人類自身が、みんなの幸せのことを考えなければ、環境問題、貧困問題、ひいては戦争も解決できないですよ。社会の課題、地域が抱える課題も同じ構造だと思います。うちの地域は過疎化で駄目だって思うと駄目です。そうではなく、残っている豊かな文化を生かしながら、一人ひとりが豊かに、いわば、一人当たりのGDPを維持しながら、みんなが幸せに生きていけばいいわけですから。少子

高齢化も、言い過ぎかもしれませんが、怖くはありません。縮小経済にいかに順応していくか、ソフトランディングしていくか、ということは難しいことですが、みんなですべて幸せになるのだと力を合わせていけば、明るい未来は可能だと思います。岩手県がやられてきた幸せの基盤づくりについて、多様な人たちが協力して、創造性を発揮して、新しいやり方をどんどんつくってほしい。創造的な幸せづくりに向け、もう一歩踏み出すということが必要だと思います。岩手県はやはり、一歩先をいつているので、これまで築いた基盤の上に、個人のやりがいとか、つながりの新しいやり方といったことを加え、ぜひ日本のリーダーとして、突っ走っていただきたい。いくらでも協力しますので。

—— 最後に岩手県へのメッセージをお願いします。

前野教授 成長、成長ということこ

ろから、定常な、サステナブルな社会に移るときというのは、社会変革ですから、苦しみや戸惑いはあると思います。しかしながら、みんながつながって、やりがいがあって、素朴だけど、毎日、自然と共にいい世界だと実感できる社会が、人類がこれから目指す社会だと考えます。世界中の人が心の故郷を求めている時代に、日本の中の、緑があり自然豊かな地域の良さをぜひ思い出していただきたいと思います。東日本大震災とか、コロナ禍とか、少子化とか、苦しいことを乗り越えてきた岩手県は、実は次の時代の先頭を走っているということです。ぜひ、苦しかったことは、みんなでコミュニケーションを取りながら、でも前を向いて、岩手県が今までやってきた幸せづくりのかたちを更に発展させ、交流やイノベーションによって、新しい世界をつくっていただきたいと思います。

(インタビュー日：2023年1月12日)



インタビューー

和川 央

わがわ ひろし

岩手県立大学研究・地域連携本部特任准教授。東北大学経済学部卒業後、岩手県庁に入庁。在職中に岩手県立大学大学院総合政策研究科博士後期課程を修了。博士(学術)、専門社会調査士。専門は公共政策、社会システム工学。自治体政策や幸福度指標に詳しい。



INTERVIEW / 1

大谷翔平選手の応援を通じて ふるさとが一丸に



大谷翔平選手ふるさと応援団事務局の皆さん。向かって左から及川主査、ダウ・ベロニカさん、村上課長、佐藤主任

大谷翔平選手 ふるさと応援団

おおたにしょうへいせんしゅふるさとおうえんだん
岩手県奥州市出身大谷翔平選手のメジャーリーグベースボールにおける
激励及び地元からの応援を目的として、奥州市をはじめ、地元の各種団
体で設立。Tシャツ等応援グッズを着用し勤務する大谷選手応援隊「大
谷デー」の実施、ふるさと応援サポーターの募集、ふるさと応援団HPによ
る情報発信などの取組を実施中。

メジャーリーグを舞台に輝かしい活躍をみせ、日本はもちろん世界中のファンから愛されている大谷翔平選手。出身地である奥州市では、自治体自らが「大谷翔平選手ふるさと応援団」として、団体や企業などとともに、ふるさと一丸となった活動を展開しています。地域のつながりを大切にしながら活動に力を入れている応援団の取組と、応援を通して得られる幸福について、お話をうかがいました。

— どのような経緯でふるさと応援団を設立したのでしょうか。

村上課長 大谷翔平選手は、学生時代から優れた才能を持つ野球選手として、常に多くの注目を集める存在でした。日本ハム球団でも大活躍をしていましたが、幼い頃からの夢をかなえて、メジャーリーグへの挑戦が実現する段階になり、地域からも応援をしたいという声が高まりました。2018年3月のメジャー契約を経て、シーズン開幕から二刀流として世界的な活躍をみせたことにより、4月のアメリカン・リーグ月間最優秀新人賞を受賞するなど、世界中にインパクトを与え、奥州市民にとって、うれしいニュースを立て続けに届けてくれました。地元としても、「大谷選手がますます元気で活躍できるよう、応援の声を上げたい」といった市民の気持ちや熱意をまとめて、海の向こうの大谷選手に届けようということで、奥州市を含む市内10団体を構成団体として、「大谷翔平選手ふるさと応援団」を2018年8月に設立するに至りました。設立に当たっては、清水寺

の森清範貫主に、大谷選手をイメージして「投打猛進」という字を揮毫していただきまして、ポスターなどにも活用しています。

— 具体的にどのような活動を行っているのでしょうか。

佐藤主任 具体的な活動としては、ふるさと応援団設立後に新たに立ち上げた活動と、設立前から各団体が独自に取り組んできた活動があります。まず、設立前から継続して取り組んできた活動を二つ紹介します。一つ目は、毎月17日にエンゼルス赤いTシャツを着用する「大谷デー」です。ふるさと応援団設立前から市役所独自で取り組んでいた活動ですが、今では多くの構成団体や応援サポーターとともに実施しています。先日は、「大谷デー」をご存じの市民の方が、エンゼルス赤Tシャツを着用されて市庁舎へ来庁されるなど、どなたでも参加しやすい活動として認識されつつあると感じます。二つ目は、岩手ふるさと農業協同組合の活動です。岩手ふるさと農業協同組合は、大谷選手が日本

ハム球団に所属している段階から、応援に力を入れてきました。農協本店には、日本ハム球団のサイン入りユニフォームやボールのほか、当時製作したオリジナルグッズなどの展示コーナーが設置されています。早期から大谷選手の世界での活躍を信じて応援し続けてきた思いは、今もふるさと応援団の一員として引き継がれています。新たな取組としては、これまでの応援活動の画像を活用した「応援ポスター」の製作があります。構成団体と応援サポーターの協力により、約300枚の素材を集めることができ、多くの方が大谷選手を応援しているということを一目で感じ



取れるようなデザインとなりました。ポスターは2022年11月23日の「大谷翔平選手応援トークイベント」に合わせて公開し、多くのイベント参加者へお披露目することができました。



— 大谷翔平選手の活躍が皆さんの日常生活や仕事に、どのように影響を与えているのでしょうか。

及川主査 ふるさと応援団として、常に大谷選手を追いかけているような感じがあります。実際、市役所1階に大谷選手の成績ボードを出してまして、去年は2桁勝利や2桁本塁打など、記録を達成するのではないかと、常に気になる存在です。

佐藤主任 大谷選手が何かの記録を達成したとか、MVPを最後まで争っているとか、そういうタイミングで、地元の応援の声をどの

ようなかたちで伝えるか、そういったことを考える楽しみがあります。また、大谷選手は、普通の人が想像できないぐらいの努力を積み重ねているはずなので、そういった努力が実際の活躍につながっているという意味ではすごくうれしいですし、怪我などしないで、その積み上げた努力がそのまま好成績に反映されて、思う存分楽しんでくればいいなと思っています。

— 応援団では、ふるさとが丸となった活動を展開しています。こうした活動の重要性について、どのようにお考えですか。

及川主査 ふるさと応援団の目的は、大谷選手の激励と応援でありまして、その目的に向かって、一致団結しています。10団体ある構成団体は、地域の各分野において重要な役割を担っていただいております。連携して活動できることで、活動を広域かつ効果的に展開できています。また、ふるさと応援団の活動の趣旨に賛同いただいている応援サポーターの皆さんと活動を共有できることは、大谷選手の応援に係る機運の更なる醸成につながっています。こうした多くの企業・団体、市民が協働して参加できる取組は、大きなつながりと力を生み出し、地域を元気にして持続可能なまちづくりを実現していくための重要な原動力になると考えています。



村上課長 大谷選手は、不断の努力が実を結び、誰も成し遂げたことのない「二刀流」で、そのプレースタイル、記録が評価される一方、グラウンドに落ちているゴミを拾うなど、プレー以外の行動も大きな注目を集めており、人間性においても高く評価されています。これは幼少期から高校生時代まで、御両親や指導者の御指導はもちろんのこと、この岩手の風土がその人間性の形成に少なからず影響を与えていたのではないかと考えています。また、地元では、皆さん心から応援したいという思いが強く、子どもさんからお年寄りの方まで、みんなでこぞって応援しています。そうした新たなつながりが生まれているように感じます。

— 今後の展望をお聞かせください。

村上課長 ふるさと応援団を設立

して5年目となり、応援の機運が高まってきていると感じます。同時に、取組がより広く認知され、様々な場面で多くの賛同や協力を得られる状況が増えていることについては、ふるさと応援団として前向きに捉えており、構成団体や応援サポーターのモチベーションの向上につながっています。今回、応援サポーターの皆さんも含めて、このようなポスターを作りながら、関係性を強化できたということもあります。今年はWBCもありますので、皆さんと更に協力しながら、大谷選手へ応援の声を届けていきたいと思っています。



— 応援団の皆さんが考える幸福とは何か、お聞かせください。

佐藤主任 ふるさと応援団は「大谷翔平選手を激励、応援する」という目的のもと、一致団結して活動しています。大谷選手のように世界的なスターは、全ての地域から出ているわけではありません。それが奥州市だということが、幸運なこと、光栄なことだと感じます。みんなに共通する「幸運なこと」が一つあって、それを応援しましょ

うという声も一つになって、今、活動できているということは、重要なことだと思います。こうした環境をより具体的に、どんどん広がり持たせていきたいと考えています。岩手県には、大谷選手以外にも有名な野球選手がいます。佐々木朗希選手、菊池雄星選手、楽天の銀次選手など。山川穂高選手は富士大学出身で、すぐ活躍されています。現役で活躍している人、岩手県に関わりある選手がすごくいっぱいいて、そういった状況を県全体で楽しむということが重要だと思います。そういった好きなものを応援する、好きなことをやるというのが、結果的に活力につながって、それぞれの仕事であったり、プライベートであったり、住んでいて楽しいまちづくりにつながっていくと思います。そういう幸運や満足感が、更に人に伝播していったら、より大きな幸運や満足につながるということが「幸福」なのかなと考えています。

及川主査 大谷選手のメジャーリーグでの活躍は、大谷選手に憧れて野球を始めるきっかけとなったり、野球の練習に打ち込むモチベーションになると思います。ふるさと応援団としては、第二の大谷選手の誕生を待ち望んでいるんですけども、野球に限らず、様々な分野から、大谷選手のように世界で活躍する人物が、これからも出てくれたらうれしいなと思っ

ています。大谷選手のプレーに多くの市民が夢と勇気をもたらしています。何事にも、夢と勇気を持って挑み続けている、そういうときというのが、その人にとって幸福なときなのかなと考えています。

村上課長 大谷選手が出場した翌日は、「今日もホームランを打った」「勝利投手になった」など、話題で持ちきりです。大谷選手が活躍すると、直接会ったことはなくとも、地元出身というだけでうれしくなったり、温かい気持ちになって元気が湧いてきます。「幸福」の基準は人それぞれだと思いますが、大谷選手の活躍から、夢や希望、元気をいただいて、日々の生活の中で明日への活力が湧いてくる、そんな「幸福」を感じられるようなまちづくり、岩手県をつくっていくことができればと思います。

(インタビュー日：2023年2月7日)





INTERVIEW / 2

佐渡裕さんとのつながりに 支えられながら、 音楽を生かした地域振興に取り組む



大槌町 吉祥寺 住職

高橋 英悟

たかはし えいご

保護司、金石仏教会事務局長。1972年生。2000年吉祥寺第18世住職に。吉祥寺は1615年開山。境内に東日本大震災犠牲者慰霊のために「抜苦地藏」を建立した。碑には「生きたくとも生きることができなかった方々の分まで私たちに生きてゆく力を授けてください」と記してある。

東日本大震災津波で失いかけた未来への希望を、音楽や芸術の力で再び見出した吉祥寺住職の高橋英悟さん。震災後の避難所での体験を原点に「バイオリン教室」「さんりく音楽祭2022」「サントリー1万人の第九」など、様々な活動を通して地域復興に取り組んでいます。復興後の今を生きる私たちにとっての希望や財産とはいったい何なのか、お話をうかがいました。

— 音楽の力で地域を盛り上げる活動を行うこととなった経緯を教えてください。

高橋住職 東日本大震災津波の発災当日、余震がある中、どんどん人が集まってきました。着の身着のままでしたから、みんな寒さで震えていました。これはもう何ともならないと思い、避難所をやると決めました。避難所生活では、皆さん気を張っていたので、人前でメソメソ泣いている人は誰もいなかったです。それぞれ過酷な状況の中でも、自分より大変な人がいるのだと、つらい思いをしながらも、当時は人のことを思いやる気持ちも含めて、みんなが頑張りすぎるくらい頑張っていたと感じます。4月に入ってから、音楽の慰問がありました。CDプレーヤーやキーボードを持ってきてくれて、みんなで歌を歌いましょう、ということになりました。その時に、避難所の中で、誰かを気にすることなく声を上げて、みんなが初めて泣きました。その姿を見て、音楽や芸術には、頑張りすぎたり、凝り固まっている心をほぐす力が

あるということに初めて気がついたのです。音楽や芸術は、困難に遭った人の心を揺さぶり、違う希望を見出してくれます。こうした体験をしたことが原点です。

— そこからどのようにして佐渡裕さんとのつながりが生まれたのでしょうか。

高橋住職 はじまりは、宝来館の女将さんが世界的な指揮者である佐渡裕さんに手紙を書いたことです。佐渡さんは東日本大震災津波の映像を見て心を痛め、「芸術家というのは、何もできないんじゃないか」「こういう時にはあまりにも無力だ」と思っていたところに、女将さんからの手紙が届いたので、自分たちが行かなければならないという思いを抱いたそうです。その思いが形となり、2011年の8月、兵庫県立芸術文化センターのスーパーキッズオーケストラを連れてきてくれたんです。宝来館の女将さんとは、以前から知り合っていましたので、女将さんとも話し合っ、8月7日、吉祥寺に佐渡さんたちをお迎えすることになりました。

町の子どもたちに、スーパーキッズオーケストラの生の演奏を聞かせたいと声をかけて、子どもたちも集まってくれました。私は会場主として、「今、被災地の子どもたちは、スーパーキッズオーケストラのみんなのように、自分のやりたいことをやれる環境にはないけども、いつか必ず自分がやりたいことをとことんやれるようになる、そういう復興を目指して頑張るから」と挨拶しました。この挨拶を佐渡さんが覚えていてくれて、仲間も含めて、色々な方に声をかけていただき、寄付を募って楽器を贈っていただきました。被災地からオーケストラの一員が出たらいいねという思いを込めて、「クラブ海の音」というバイオリンの教室を10年間主宰しました。





—— 高橋さんと佐渡さんの思いが重なって、現在につながっているのですね。

高橋住職 佐渡さん自身も、阪神・淡路大震災から10年目に兵庫県立芸術文化センターが立ち上がった際、建物をつくるだけでなく、子どもたちを育てていく、音楽や芸術の力で街を元気にしていくことを、続けてきた方です。そのような佐渡さんの姿から、私たちも、まず10年頑張れば、あれだけ大変な経験をしながらも乗り越えた兵庫の方々のように、心折れずに復興していけるのではないかと感じてきました。佐渡さんが、「毎年必ず来るから」と約束をしてくれて、交流が続いています。

—— 何が高橋さんを突き動かしてきたのでしょうか。

高橋住職 まさに地獄を見たとい

うことです。私自身は僧侶として、地獄の世界というのは観念としては、頭の中でわかっていたつもりでしたが、震災で目が覚めたということだろうと感じます。今できることは、残された命を守っていくこと、生かされた命を守って生きていくことです。それが亡くなった方への御供養につながっていきます。とにかく、残された人が希望を失わないように、どんなことがあっても前を向いて生きていこう、応援し続けていこうということが、私の原点です。

—— 東日本大震災津波から12年。高橋さんの活動の意味は変わってきていますか。

高橋住職 格差がどんどん広がってきてしまっていて、発災直後から始まっていた様々な格差を埋める活動をしなくてはいけないと思っています。震災から5年後、

慰霊碑をつくりましょうかという提案をしたところ、行方不明の方がいらっしゃる御家族からは、まだそんな気持ちにはなれないというお返事をいただきました。御遺体が見つかった方と行方不明の方との差というのは、やはりなかなか埋められません。その後、七回忌に合わせて慰霊碑をつくることができましたが、全員の名前を載せることはできませんでした。私から提案したのは、犠牲者の全員のお名前を書いたものを、お地藏さんのお腹の中に入れておくということ。皆さんここに来て手を合わせて、犠牲になられた方々の御供養をするという方法で納得をしていただきました。皆さんそれぞれ、津波によってなくしたものと、受けたダメージの差がありすぎて、この格差やつらい思いにスポットを当てていかなければならないとっていて、そういう活動をずっと続けていかななくてはいけないということは確かです。

—— そのような時期となった現在でも、音楽や芸術は重要なのでしょうか。

高橋住職 佐渡さんは、昨年も岩手県に5回もお越しいただき、それぐらい本当に大切に思ってください。地域の人が、いかに自分たちの地域で生きていくため、どんなことができるかということ、一緒に考えていこうと

いうスタンスで来てくださっています。それは今、佐渡さんも「1万人の第九」に挑んでいますけれども、我々にも次の新たなステップとして、みんなで歌ったり、踊ったりというところまでチャレンジしてみようかという計画を立ててくださっています。

— ミュージカルや演劇というところででしょうか。

高橋住職 そこまでいきたいと。岩手県内の多くの皆さんも応援をしてくださっています。その応援もあって、佐渡さんからも、こういうバックアップがあるところであれば、やれることがどんどん増えると言ってくださっています。最近はどうも、親戚や家族だと思っているというくらいの思いで来てくださっています。

— 住職さんをやりながら、こうした活動を続けるのはものすごく大変ですね。

高橋住職 震災後から、目の前にあることをとにかく精いっぱいやる、それしかないという思いで



走ってきています。佐渡さんもそうですけれども、私たちを大切に思ってくれる人がいる、そういう存在が生きる希望や力になってくる、それを今、感じています。一人で生きているのではなくて、大切に思ってくれている、支えてくれている、そういう方がいる、これがやはり、私たちの生きる希望です。それを感じられるということが、生きていくということであり、希望であり、幸せであるのかなと思います。決してお金があればいいとか、ものがあればいいということではなく、本当にお金やもので人の心は絶対に満足しないということを改めて感じています。だから、本当の幸せ、財産というのは、誰からも奪われることのないもの。それは、人を大切に思う心とか、人から大切に思われる生き方だと思います。これが、誰からも奪われることのない絶対の宝物です。

— 地域の子どもたちにとって、



高橋さんがそういう存在になっているのですね。

高橋住職 今、岩手県は、音楽や芸術がグイグイ力をつけています。本気になっている背中を子どもたちに見せていくことが、我々大人の一番大切なところだと思います。大人が、自分のことだけではなくて、次の世代のこと、そのまた次の世代のことを考えて行動し、本気になって、熱くなってやる姿を見せてくることが、財産につながっていくと思います。

(インタビュー日：2022年12月23日)



いわて県民計画(2019～2028) 第2期アクションプランの概要

いわて県民計画(2019～2028)の理念

- 県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること
- 地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと
- 社会的に弱い立場にある方々が孤立することのないように、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の観点に立った取組を進めること

いわて県民計画(2019～2028)の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

いわて県民計画(2019～2028)の構成

長期ビジョン

長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするものです。〔計画期間：2019年度から2028年度までの10年間〕

アクションプラン

長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方を盛り込むものです。

第2期アクションプランの計画期間等

計画期間

令和5年度から令和8年度までの4年間

構成

長期ビジョンの内容及びこれまでの構成等を踏まえ、「復興推進プラン」「政策推進プラン」「地域振興プラン」「行政経営プラン」で構成

第2期政策推進プランの重点事項

- 第2期政策推進プランにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の2050年度実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化します。
- 第1期政策推進プランの成果と課題、市町村長との意見交換、関係団体等からの御意見・御提言を踏まえ、第2期政策推進プランでは、人口減少対策を最優先で取り組むべきものと位置付けています。
- 4つの重点事項を掲げ、10の政策分野や11のプロジェクトなど、県民計画に基づく施策を着実に推進します。

【重点事項1】

性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

- 性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めるとともに、産業政策を総合的に展開し一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めながら、結婚、妊娠・出産、子育てへの支援などの自然減対策や、若年層の県内就職、移住・定住の促進などの社会減対策を強化します。
- 市町村や関係団体等と連携し、県民運動等による社会全体の機運醸成を行い、安心して子どもを生み育てられる環境の充実にオール岩手で取り組んでいきます。

【重点事項2】

GX(グリーン・トランスフォーメーション)を推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

- 再生可能エネルギーの導入促進、森林整備や県産木材の利用促進など森林資源の循環利用、省エネ住宅の普及を進めるなど、地域経済と環境に好循環をもたらす持続可能な新しい成長を目指しながら、誰もが住みたいと思えるふるさとを次世代に引き継いでいきます。
- 県民、事業者、行政が一体となり、温室効果ガス排出削減目標の達成に向け県民運動を展開します。

【重点事項3】

DX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

- 全ての県民がDXの恩恵を享受できるよう、「行政のDX」「産業のDX」「社会・暮らしのDX」「DXを支える基盤整備」の4つの取組方針のもと、あらゆる産業のDXの促進、県民生活の利便性の向上、情報通信インフラの整備、市町村への支援を進めます。

【重点事項4】

災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

- 東日本大震災津波や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します。



第2部

「希望郷いわて」の今

| 岩手県 | 田野畑村 | 北山崎 |

いわて幸福白書2023



第2部の概要

第2部では、県民の幸福感の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。

県民の幸福感の現状については、毎年実施している県民意識調査^(注1)の調査結果の中から、「主観的幸福感」、「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感」の結果を掲載しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、30ページ以降、「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「いわて県民計画」という。)に掲げる10の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。

なお、10の政策分野の概要は、28ページをご覧ください。

※ 30ページ以降の「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」は、令和4年11月に公表した「政策評価レポート2022」を基に作成しているため、記載内容は公表当時のものです。「県民の幸福度向上に向けた県の取組や成果」の見方は29ページをご覧ください。

県民の幸福感の現状

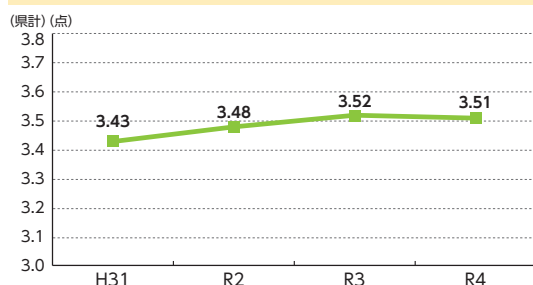
主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で把握したものです。

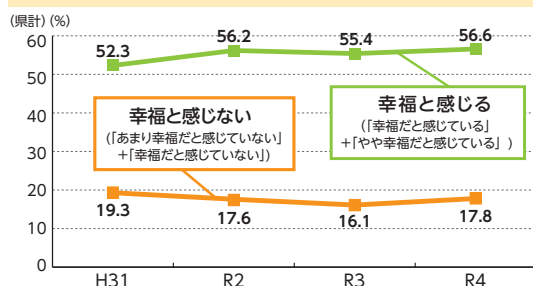
その結果、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.51点となりました。

また、幸福と感じている人の割合は、基準年(H31)より上昇しています。

主観的幸福感の平均値(県計)の推移(点数)



主観的幸福感(県計)の推移(割合)



幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択いただいたものです。

その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。



分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、下表の12の分野別実感を回答いただいたものです。

いわて県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、4分野で上昇、3分野で横ばい、5分野で低下が見られました。

実感の平均値が高い順に「自然の豊かさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっています。なお、「自然の豊かさ」の実感は、4点を超えています。

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31 (基準年)	R4 (当該年)	H31とR4の差
I 健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.20	↑ (0.20)
	(2)余暇の充実	3.05	2.96	↓(△0.09)
II 家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.91	↑ (0.07)
	(4)子育て	3.08	3.16	↑ (0.08)
III 教育	(5)子どもの教育	3.10	3.18	↑ (0.08)
IV 居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.31	- (△0.03)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.10	↓(△0.25)
V 安全	(8)地域の安全	3.82	3.72	↓(△0.10)
VI 仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.41	↓(△0.12)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.57	↓(△0.07)
VII 歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.27	- (△0.01)
VIII 自然環境	(12)自然の豊かさ	4.21	4.23	- (0.02)

(注) ① ()は基準年調査との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② †検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記しています。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高め、県民の幸福度の向上に向けた取組を着実に推進していくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標（いわて幸福関連指標）の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感^(注2)、参考指標^(注3)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

評価区分	10の政策分野の総合評価の基本的な考え方	
A	政策分野ごとに、全ての指標が目標達成率80%以上（指標達成度 ^(注) 【A】又は【B】）であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいることから、引き続き取組を推進するもの。	(注) 指標達成度の判定区分 【A】100%以上 【B】80%以上 100%未満 【C】60%以上 80%未満 【D】60%未満
B	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け概ね順調に進んでおり、一部見直しを行いながら、引き続き取組を推進するもの。 ※全ての指標が目標達成率80%以上であっても、県民の実感が基準年(H31年)と比べ「低下」している場合には B とする。	
C	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数未満であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向けあまり順調に進んでいないことから、一部見直しのほか、より効果的な取組を検討するなど、一層の施策の推進が必要なもの。 ※目標達成率80%以上の指標が半数以上であっても、県民の実感が基準年(H31年)と比べ「低下」している場合には C とする。	
D	政策分野ごとに、目標達成率60%未満（指標達成度【D】）の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいないことから、見直しや改善を行うなど、更なる重点的な施策の推進が必要なもの。	

(注1) 県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。

調査の概要は次のとおりです。

- ①調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ②対象者数 5,000人
- ③抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ④調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑤調査時期 毎年1～2月
- ⑥回収率 令和4年調査は66.5%(3,324人/5,000人)

(注2) 政策分野ごとの実感（分野別実感）について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の政策評価に活用しています。なお、県民の幸福を支える共通土台として設定した「IX社会基盤」、「X参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

(注3) 参考指標について

県民の幸福に関連する統計データであるものの、毎年実績値を把握できないものや、個人の選択の自由に関連するものなど、目標値を設定して管理することになじまない統計データについては、「参考指標」として位置付けています。

参考指標の動向は、政策分野を取り巻く社会情勢の変化等とともに、政策分野の総合評価に反映されます。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと
一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成するあらゆる主体とともに、「10の政策分野」の取組を展開していきます。



健康・余暇分野 (P30~)

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。



評価結果

B



家族・子育て分野 (P33~)

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。



評価結果

B



教育分野 (P36~)

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。



評価結果

B



居住環境・コミュニティ分野 (P39~)

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。



評価結果

D



安全分野 (P42~)

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。



評価結果

C



仕事・収入分野 (P45~)

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。



評価結果

D



歴史・文化分野 (P48~)

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。



評価結果

C



自然環境分野 (P50~)

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。



評価結果

B



社会基盤分野 (P53~)

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。



評価結果

B



参画分野 (P55~)

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。



評価結果

B

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

●政策分野名

10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●指標

いわて県民計画長期ビジョンに掲載しているいわて幸福関連指標の動向を中心に記載しています。詳しくは[いわて幸福関連指標の達成状況]をご覧ください。

●政策分野の総合評価

いわて幸福関連指標の状況、政策分野に係る県民の実感、政策分野の取組状況、他の主体の取組状況についてまとめた上で、当該政策分野の総合評価をA B C Dの4段階で判定したものを記載しています。

●いわて幸福関連指標の達成状況

いわて幸福関連指標の目標値や令和3年度の値などを記載しています。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値や順位を測定できない指標は「-」と表示しています。

●実感

幸福に関連する分野の実感の動向を記載しています。詳しくは[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]をご覧ください。

●いわて幸福関連指標の達成度

政策分野ごとのいわて幸福関連指標の達成度の構成比と指標数を円グラフで表示しています。
※構成比は、端数四捨五入の計算のため、100%にならない場合があります。

●全国順位(東北順位)

いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を平成29年度現状値と比較しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

VII 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手

【成果】「歴史・文化への誇り」は、増えたりしました。
【課題】「国・県指定文化財数」は、「世界遺産等の登録数」は減少しました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

【取組状況】

世界遺産出前授業
県の子どもたちに、全国3つの世界遺産の価値を伝え、郷土への愛着や誇りが深まるよう、県内の小中学校に授業を実施しました。

教員研修研修会
世界遺産の価値や歴史の歴史や文化について子どもたちの理解が深まるよう、教員を対象とした研修会を開催しました。

国立平泉世界遺産ガイドンセンター
「平泉」の価値を広く発信するため、観光客や市民が訪れるための拠点となる施設の建設(見学予約受付開始)を進めています。

3つの世界遺産パネル巡回展
本県が誇る3つの世界遺産の価値や魅力を発信するため、県内外の様々な施設で開催しました。

岩手県長谷音祭フェスティバル
本県の伝統文化を次の世代に継承・発展させるため、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる「長谷音祭フェスティバル」を開催しました。

「文化財保存活用地域計画」策定への支援
文化財の保存、活用が促進される地域に、県を支援して、「文化財保存活用地域計画」の策定を支援しました。

今後の取組方向

- 世界遺産等の価値を共有し、広めるため、保存管理計画に基づく適切な保存管理や関係機関との連携などに取り組めます。
- 世界遺産を活用した人的・文化的交流を図るため、平泉世界遺産ガイドンセンターを「平泉の文化遺産」の周遊・魅力発信の拠点として活用するとともに、本県の3つの世界遺産及び関連遺産を有する地域間の連携・交流に本県が積極的に取り組めます。
- 県民の郷土愛を醸成するため、本県が誇る民俗芸能に魅了される機会や情報発信により、伝統文化への理解を深め、次世代へ受け継ぐ取組を推進します。
- 地域に伝承されてきた文化財を後世に伝えていくため、市町村と連携し、文化財の適切な保存・継承に取り組めます。
- 地域活性化を図るため、地域の歴史や歴史、様々な文化財や多様な民俗芸能、食文化の伝

●取組状況

政策分野の取組方向を実現するための令和4年度の県の取組状況を記載しています。

●今後の取組方向

政策分野の取組方向を実現するための政策推進上の今後の取組方向を記載しています。

●参考指標

いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

令和4年度の評価結果

【政策評価の結果】

歴史・文化分野の評価結果

いわて幸福関連指標の達成度

● いわて幸福関連指標3指標は、達成度の各指標が1指標(33%)、達成度C、Dの指標が2指標(66%)でした。
● この政策分野に係る県民の実感も、「歴史・文化への誇り」が増えたりしました。
● この分野の取組状況は、世界遺産の保存と活用や、伝統文化が受け継がれる環境づくり、交流を広げる取組に遅れがもたらされています。
● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録推進に向けて、関係市町において選別の取組等が進められています。
● 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。

【いわて幸福関連指標の達成状況】

指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(H4)	年度目標値(H4)	実績値(H3)	達成率	参考)全国順位(東北順位)
6.2 世界遺産等の出前授業	千人	927	950	937	417	D	H29 R3
6.3 国・県指定文化財数	件	9565	581	577	574	C	31位(30)
6.4 民俗芸能ネットワーク構築団体数	団体	396	396	396	393	B	31位(30)

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
29 森林被覆割合	%	74.9	-	5年ごとの公表

【県民意識調査の結果(分野別実感の状況)】

調査項目: 自然に生まれていると感じますか

基準年(H31): 4.21 | 実績値(H4): 4.23 | 横ばい

●県民意識調査の結果

令和4年県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。

【分野別実感の平均値の算出方法】

各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したものです。

【比較】

分野別実感の平均値について、基準年(H31)との比較において、次の結果であったものを記載しています。

上昇: t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、上昇した場合
横ばい: t検定の結果、5%未満で有意な変化が確認できなかったもの。
低下: t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認でき、低下した場合

10の政策分野に対応するいわて幸福関連指標の状況

いわて幸福関連指標の指標名、目標値や令和3年度の目標に対する達成率などを記載しています。

【目標達成率の計算式】

- 通常の指標 (H29現状値から数値を上げる目標)
 $(R3実績値 - H29現状値) / (R3目標値 - H29現状値) \times 100$
- マイナス指標 (H29現状値から数値を下げる目標)
 $(H29現状値 - R3実績値) / (H29現状値 - R3目標値) \times 100$
- 維持指標等 (H29現状値を維持する目標等)
 $(R3実績値) / (R3目標値等) \times 100$

※なお、現状値がない指標など、この計算式により難しい場合は、次の計算式により算出しています。

$$(R3実績値) / (R3目標値) \times 100$$

指標達成度	目標達成率
達成 A	100%以上
概ね達成 B	80%以上100%未満
やや遅れ C	60%以上80%未満
遅れ D	60%未満



県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

I 健康・余暇



健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手

- 実感** 「心身の健康」は上昇、「余暇の充実」は低下しました。
- 指標** 「健康寿命」は女性 **B**、男性 **C**、「余暇時間」は **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



運動講座の実施

健康経営に取り組む事業所において、インストラクターによる簡単にできるリフレッシュストレッチ講座を開催しました。



看護職を目指す 中学生・高校生等の進学セミナー

看護職員の確保定着を図るため、中学生・高校生を対象にセミナーを開催しました。



介護ロボット等の導入支援

介護事業所における介護ロボット等の導入に要する経費に対して補助を行いました。



岩手芸術祭総合フェスティバル

新型コロナウイルス感染症の影響により来場できない人も鑑賞できるよう、オンライン配信を取り入れた「岩手芸術祭総合フェスティバル」を開催しました。



岩手県障がい者スポーツ大会

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、「岩手県障がい者スポーツ大会」を開催しました。



岩手県立図書館 創立100周年記念式典

創立100周年を記念して式典を開催し、作文コンクールの表彰や図書館の歩みと未来をテーマにトークを行いました。

今後の取組方向

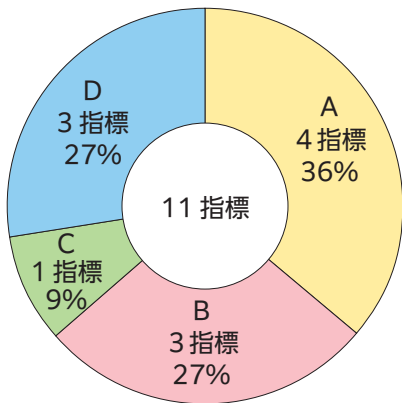
- 保健医療データの分析を踏まえた効果的な情報発信等、がん検診及び特定健診の更なる受診率向上等に取り組めます。
- 多様な関係者と連携等を図りながら包括的な自殺対策プログラムを推進するほか、職域や地域の特性、属性に応じた相談支援体制の充実等、自殺対策の取組を推進します。
- 即戦力医師の招へいや奨学金による医師養成、医療従事者の勤務環境改善等の取組を推進するとともに、周産期医療機関の機能分担、連携及び救急搬送体制の充実強化等に取り組めます。
- ヤングケアラーやダブルケアといった複雑化、複合化した支援ニーズに対応するため、市町村の重層的支援体制整備事業*の取組を促進します。
- 日常的に文化芸術・スポーツに親しむことができるよう、文化芸術活動の鑑賞や発表の機会等の充実、総合型地域スポーツクラブの活性化等に取り組めます。

*重層的支援体制整備事業：属性や世代を問わない相談支援や社会とのつながりを回復する参加支援などの個別支援に加え、住民同士がつながり支え合う地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

健康・余暇分野の評価結果	評価の説明
B	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 11 指標は、達成度 A、B の指標が 7 指標 (63%)、達成度 C、D の指標が 4 指標 (36%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「心身の健康」が上昇、「余暇の充実」が低下しました。 ● この分野の取組状況は、介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりの取組が進みましたが、幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げる取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「自殺対策推進協議会」において、保健・医療、教育、労働関係団体等の多様な関係者が連携しながら、効果的な自殺対策が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	



[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
1 健康寿命(平均自立期間)	年	男性 ㊸ 79.32	③80.60	②80.34	②80.03	C	—	—	—
		女性 ㊸ 83.96	③84.84	②84.66	②84.59	B	—	—	—
3 がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数(10万人当たり)	人	男性 ㊸ 305.1	③273.8	②281.0	②283.4	B	—	—	—
		女性 ㊸ 158.7	③135.7	②139.5	②154.5	D	—	—	—

指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
5 自殺者数(10万人当たり)	人	21.0	16.0	17.0	16.2	A	46位 (5位)	21位 (1位)	↑ (↑)
6 地域包括ケア関連(元気な 高齢者割合) ^{※1}	%	98.71	98.86	98.83	99.38	A	—	—	—
7 地域包括ケア関連(在宅 医療連携拠点の事業区 域数)	箇所	⑩16	27	24	23	B	—	—	—
8 余暇時間(一日当たり) ^{※2}	分	⑳373	390	386	372	D	—	—	—
9 県内の公立文化施設にお ける催事数 ^{※3}	件	1,316	1,385	1,372	997	D	—	—	—
10 スポーツ実施率	%	61.7	③65.0	②64.5	②65.4	A	—	—	—
11 生涯学習に取り組んでい る人の割合	%	40.2	44.2	43.2	46.1	A	—	—	—

※1 全国を100とした水準

※2 休日を含む1週間の平均

※3 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
1 健康寿命(日常生活に制限のない期間)	年	男性 ⑳71.85	①71.39	3年ごとの公表
		女性 ⑳74.46	①74.69	3年ごとの公表
3 喫煙率	%	⑳22.6	—	3年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
こころやからだ
が健康だと感じますか



調査項目
余暇が充実している
と感じますか





II 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手

実感 「家族関係」、「子育て」は、ともに上昇しました。

指標 「男性の家事時間割合」は **A**、「総実労働時間」は **B**、「合計特殊出生率」は **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



子育てサポートセンター

子育てサポートセンターにおいて、子育て相談への対応や、親子で参加できるイベント開催などを実施しました。



産後ケア事業

退院直後の母子に心身のケア等を行う「産後ケア事業」の利用料を無償化した市町村への支援により、実施市町村の拡大に取り組みました。



県立野外活動センターにおける体験活動

子どもたちの豊かな体験活動の充実のため、県立野外活動センターにおける季節に応じた野外活動を通して、自然に親しみ、興味・関心を高める事業を実施しました。



いわて希望塾

積極的に岩手の地域づくりを担う、心豊かで意欲に満ちた人材の育成を目的に、体験活動や交流活動などを、関係団体等と連携して開催しました。



いわて働き方改革 AWARD2022

「いわて働き方改革推進運動」を全県的に推進するため、「いわて働き方改革 AWARD2022」を開催し、優良企業等を表彰しました。



犬・猫の譲渡会

保健所が収容した動物を1頭でも多く新しい飼い主へ譲渡するため、動物愛護団体等と連携し譲渡会を開催しました。

今後の取組方向

- 若い世代に対するライフデザインの構築支援、結婚サポートセンター「i-サポ」の新規会員の確保やマッチング支援の強化、不妊に悩む夫婦への総合的な支援等に取り組みます。
- 市町村における産後ケア事業等の実施や保育所等の計画的な施設整備を促進するとともに、周産期救急搬送体制の強化やハイリスク妊産婦の通院等への支援等に取り組みます。
- 学校・家庭・地域が連携・協働する仕組みづくりを推進し、コミュニティ・スクールと連携した教育振興運動や地域学校協働活動の一層の充実に取り組みます。
- デジタル技術等を活用した企業の生産性向上を支援し、長時間労働の是正、年次有給休暇の取得率向上等の働き方改革を推進するとともに、柔軟で多様な働き方の取組を促進します。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

家族・子育て分野の評価結果	評価の説明
B	
いわて幸福関連指標の達成度	
<p>7 指標</p> <p>A 3 指標 43%</p> <p>B 3 指標 43%</p> <p>D 1 指標 14%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が6指標(86%)、達成度Dの指標が1指標(14%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「家族関係」、「子育て」が上昇しました。 ● この分野の取組状況は、地域やコミュニティにおいて、学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを支える取組が進みました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において妊産婦を総合的に支援する体制づくりが進められているなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R3)	実績値(R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
12 合計特殊出生率		1.47	1.58	1.55	1.30	D	33位(2位)	36位(4位)	↓(↓)
13 待機児童数(4月1日時点)	人	178	0	0	12	B	24位(4位)	19位(4位)	↑(→)
14 地域の行事に参加している生徒の割合(中学生)	%	◎63.7	64.0	64.0	62.9	B	2位(1位)	3位(1位)	↓(→)

指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
15 総実労働時間〔年間〕	時間	1,858.8	1,720.8	1,748.4	1,761.6	B	46位 (5位)	44位 (3位)	↗ (↗)
16 共働き世帯の男性の家事 時間割合〔週平均〕※	%	34.2	40.0	39.0	39.2	A	—	—	—
17 犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 98.0	99.0	98.8	100.0	A	—	—	—
		猫 93.5	96.8	96.1	98.8	A	—	—	—

※ 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
4 待機児童数〔10月1日時点〕	人	681	118	—
5 共働き男性の家事時間	分	100	125	—
6 共働き女性の家事時間	分	292	319	—
7 生涯未婚率	%	男性 ㉞26.16	㉞29.61	5年ごとの公表
		女性 ㉞13.07	㉞16.70	5年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目

家族と良い関係が
とれていると
感じますか

実感平均値

基準年[H31]

3.84

実績値[R4]

3.91

比較

上昇

調査項目

子育てがしやすいと
感じますか

実感平均値

基準年[H31]

3.08

実績値[R4]

3.16

比較

上昇



III 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、
自分の夢を実現できる岩手

実感 「子どもの教育」は、上昇しました。

指標 「意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合」は中学生が **A**、小学生が **D**、「体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合」は小学生女子と中学生は男女とも **B**、小学生男子は **D**、「高卒者の県内就職率」は **B**、「自己肯定感を持つ児童生徒の割合」は小学生・中学生とも **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実

大型提示装置や1人1台端末、無線LAN環境等を整備し、授業におけるICT機器の効果的な活用を推進しました。



いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業

地域との協働により、地域の魅力発信や活性化など、地域課題の解決に向けた探究学習を実施しました。



特色ある私学教育の充実

筆の師範を外部講師として招き、伝統・文化に対する理解を深めるなど、各学校において特色ある教育に取り組みました。



「いわての復興教育」

県立大槌高等学校復興研究会による防災紙芝居の読み聞かせ活動など、各学校で「いわての復興教育」に取り組みました。



県立高校と中国雲南省高校とのオンライン交流

本県と雲南省の若者同士の交流を途絶えさせることなく継続するため、県立一関第一高等学校においてオンラインでの交流を行いました。



にのへインターンシップWeek成果報告会

岩手県内三大学連携インターンシップにおいてお世話になった二戸市役所や企業に向けて、インターンシップの成果報告を行いました。

今後の取組方向

- 児童生徒の確かな学力を育むため、ICT機器の効果的な活用方法の普及、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進等に取り組みます。
- 児童生徒の豊かな人間性と社会性を育むため、道徳教育や人権教育等の充実、学校・家庭・地域が連携した多様な体験活動の推進等に取り組みます。
- 家庭や地域等と連携し、「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」の形成による児童生徒の健康の保持・増進と適切な部活動の推進に取り組みます。
- 共に学び、共に育つ特別支援教育を進めるため、進学時の円滑な引継ぎ、通級による指導、医療的ケア看護職員の適切な配置など指導体制や支援体制の充実に取り組みます。
- 地域に貢献する人材を育てるため、「いわての復興教育」の取組を充実させるとともに、キャリア教育を一層推進するほか、各産業を担う人材や、デジタル化やDX*を推進する人材の育成等を推進します。

*DX：デジタル・トランスフォーメーション。デジタル化を手段として、既存の価値観や枠組みを見直す変革を行い、課題解決や新しい価値を創造すること。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

教育分野の評価結果	評価の説明
B	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 18 指標は、達成度A、Bの指標が9指標 (50%)、達成度C、Dの指標が9指標 (50%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「子どもの教育」が上昇しました。 ● この分野の取組状況は、共に学び、共に育つ特別支援教育や多様なニーズに応じた特色ある私学教育の取組が進みましたが、高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村教育委員会と連携し、児童生徒1人1台端末等のICT機器の効果的な活用の促進に向けた検討が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	
<p>18 指標</p> <ul style="list-style-type: none"> A 4 指標 22% B 5 指標 28% C 2 指標 11% D 7 指標 39% 	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

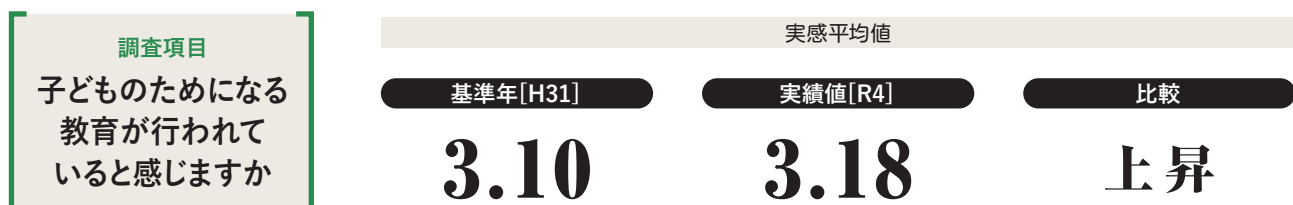
指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
19 意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 ⑩80.9	84.9	83.9	82.5	D	—	—	—
20		中 ⑩77.2	81.2	80.2	85.4	A	—	—	—
21 授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 ⑩80.7	84.7	83.7	83.0	C	—	—	—
22		中 ⑩80.0	84.0	83.0	83.5	A	—	—	—

指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
23	%	小 ㊦66	70	69	68	C	—	—	—
24		中 ㊦64	68	67	67	A	—	—	—
25		高 ㊦57	61	60	62	A	—	—	—
26	%	小 ㊦82.3	85.0	84.0	76.4	D	—	—	—
27		中 ㊦76.9	80.0	79.0	76.2	D	—	—	—
28	%	小 男子 73.6	75.0	74.5	68.9	D	14位 (2位)	10位 (2位)	↗ (→)
29		小 女子 82.9	83.0	83.0	79.1	B	9位 (2位)	8位 (2位)	↗ (→)
30		中 男子 77.7	78.0	78.0	74.8	B	7位 (1位)	5位 (2位)	↗ (↓)
31		中 女子 91.3	91.5	91.5	88.8	B	8位 (1位)	7位 (1位)	↗ (→)
32	%	—	68.0	66.0	63.0	B	—	—	—
33	%	65.8	84.5	84.5	74.1	B	39位 (5位)	—	—
34	%	小 ㊦86.5	88.0	87.5	82.1	D	—	—	—
35		中 ㊦73.2	76.0	75.5	72.8	D	—	—	—
36	%	45.3	51.5	50.5	47.0	D	(1位)	(1位)	(→)

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
9	%	小 国語 ㊦42	50	—
10		小 算数 ㊦50	42	—
11		中 国語 ㊦45	37	—
12		中 数学 ㊦54	57	—
13	人	小 3.4	8.4	—
14		中 25.9	39.6	—
15		高 13.1	19.8	—

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]



IV 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手



実感 「住まいの快適さ」は横ばい、「地域社会とのつながり」は低下しました。

指標 「県外からの移住・定住者数」は **B**、「地縁的な活動への参加割合」は **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



省エネルギー住宅技術 普及促進支援セミナー

脱炭素社会の実現に向けて、県内の建築士等の省エネ技術の向上を図ることを目的としたセミナーを開催しました。



新盛岡バスセンターへの 電光掲示板設置に対する支援

岩手県バス協会が行うバスロケーションシステムの表示機器の設置に対して支援を行いました。



地域おこし協力隊等分野別研修会

地域おこし協力隊の活動の充実や任期満了後の定住・定着に向けて、研修を行いました。



いわておかえりプロジェクトの実施

県外で働く若者等にUターンを意識を高めてもらうため、「いわておかえりプロジェクト」を実施しました。



海外技術研修員の受入れ

ブラジル岩手県人会から技術研修員を受け入れ、県内の企業で6か月間の研修を実施しました。



日本スポーツマスターズ2022 岩手大会の開催

全国各地から、約6,500名の選手・監督が参加した「日本スポーツマスターズ2022岩手大会」において、本県の魅力や復興支援への感謝を発信しました。

今後の取組方向

- 地域公共交通の維持・確保に向け、ビッグデータ等を活用し、住民のニーズに対応した効率的で持続可能な地域公共交通ネットワークの構築に取り組みます。また、国や市町村等と連携し、広域的な幹線路線の確保等の支援等に取り組みます。
- 持続可能な地域コミュニティづくりに向け、市町村等と連携し、特定地域づくり事業協同組合の設立等に取り組むとともに、人材育成や地域運営組織の形成促進等に取り組みます。
- 地域おこし協力隊について、ネットワークづくりの支援等により、地域への定着を図ります。
- 移住・定住を促進するため、市町村等と連携し、訴求力の高い情報発信や移住体験等の取組を強化します。
- 移住希望者の多様なニーズに対応するため、移住と就職の一元的な相談機能を強化するとともに、農林水産業や医療・福祉等各分野の人材確保の取組等も併せて展開します。
- 復興支援のつながりを生かした文化芸術の取組を継続するとともに、スポーツ大会・合宿の誘致、スポーツアクティビティの普及等に取り組み、人的・経済的な交流を推進します。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

居住環境・コミュニティ分野の評価結果	評価の説明
<h1 style="font-size: 2em; color: green;">D</h1>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度Bの指標が2指標(29%)、達成度C、Dの指標が5指標(71%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「住まいの快適さ」が横ばい、「地域社会とのつながり」が低下しました。 ● この分野の取組状況は、快適で豊かな暮らしを支える生活環境づくりや、岩手で暮らす魅力を高め、移住・定住を促進する取組が進みましたが、つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てる取組や、海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりについては、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、地域おこし協力隊等による、地域内の自発的な活性化や担い手の育成支援に向けた取組が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Dと判断しました。
<p style="text-align: center;">いわて幸福関連指標の達成度</p> <p style="text-align: center;">7指標</p>	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R3)	実績値(R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
37 県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,757	1,597	1,584	B	—	—	—
38 汚水処理人口普及率	%	80.8	86.5	85.2	84.4	B	35位(5位)	35位(5位)	→ (→)

指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)			
							H29	R3	比較	
39	三セク鉄道・バスの一人 当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	10.2	D	—	—	—
40	地縁的な活動への参加 割合	%	36.9	43.0	41.5	33.3	D	—	—	—
41	在留外国人数〔10万人当 たり〕	人	527.0	748.6	702.1	597.0	D	45位 (4位)	45位 (4位)	→ (→)
42	文化・スポーツ施設の入 場者数(文化施設入場者 数) ^{※1}	千人	168	③176	②174	②33	D	—	—	—
43	文化・スポーツ施設の入 場者数(スポーツ施設入 場者数) ^{※2}	万人	805	806	806	486	C	—	—	—

※1 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数

※2 県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
16 三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	1,214	—
17 持ち家比率	%	②568.9	③069.9	5年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目

住まいに快適さを
感じますか

実感平均値

基準年[H31]

3.34

実績値[R4]

3.31

比較

横ばい

調査項目

地域社会との
つながりを
感じますか

実感平均値

基準年[H31]

3.35

実績値[R4]

3.10

比較

低下

V 安全



災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手

実感 「地域の安全」は、低下しました。

指標 「刑法犯認知件数」は **A**、「交通事故発生件数」は **B**、「自主防災組織の組織率」は **C**となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



自主防災組織活性化モデル事業

自主防災組織の活性化に向け、モデル地区を選定し、地区で避難訓練を実施しました。



地震・津波被害想定調査報告書の公表

本県最大クラスの地震・津波の被害想定と減災対策の基本的方向性等を示した報告書を取りまとめ、住民向け説明会を開催しました。



「横断歩道の日」における交通安全活動

毎月第2水曜日を「横断歩道の日」に指定し、登下校時の子どもの見守り活動を推進しました。



消費生活出前講座若者編

高校生、専門学校生などを対象に若者の消費者トラブル事例や被害に遭わないための注意点など消費生活に関する出前講座を実施しました。



いわて飲食店安心認証制度

安心して飲食できる環境を提供するため、いわて飲食店安心認証制度により、基準を満たす感染対策を実施している事業者を認証しました。



ICATによる感染制御の普及啓発

いわて感染制御支援チーム（ICAT）が、総合防災訓練の参加者に対し、適切な手指消毒の方法等、感染制御に関する普及啓発を行いました。

今後の取組方向

- 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震などの今後起こり得る大規模自然災害に備え、県民の防災意識の向上、住民同士が助け合える体制の強化、個別避難計画の作成支援、避難場所等の整備

促進など、国・市町村・防災機関等と連携しながら、自助・共助・公助に基づく総合的な防災・減災対策を推進します。

- 特殊詐欺の被害防止などの啓発活動等により、地域ぐるみでの防犯意識の高揚に取り組みます。
- 性犯罪被害者等の相談窓口における支援体制の充実など、犯罪被害者を支える社会づくりを推進します。
- 関係機関・団体等と連携した普及啓発や交通安全運動等により、高齢者や子ども等の事故防止を重点とした交通事故抑止対策を推進します。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に備え、引き続き、市町村や関係機関等と情報共有や連携を図り、必要な病床や診療・検査体制などの確保に取り組みます。
- 新たな感染症発生に備え、市町村や関係機関と連携した訓練の実施、医療機関のネットワーク化による診療・検査体制等の整備等に取り組みます。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

安全分野の評価結果	評価の説明
<div style="font-size: 2em; color: green; font-weight: bold;">C</div>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標4指標は、達成度A、Bの指標が3指標(75%)、達成度Cの指標が1指標(25%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「地域の安全」が低下しました。 ● この分野の取組状況は、事故や犯罪が少なく、安全・安心に暮らせるまちづくりや、感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守る取組が進みましたが、自助、共助、公助による防災体制の取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において防災士資格の取得を促し、自主防災組織の中核を担う人材の育成に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。
<div style="background-color: green; color: white; padding: 5px; text-align: center;">いわて幸福関連指標の達成度</div> <div style="text-align: center;"> <p>4指標</p> <p>A 2指標 50%</p> <p>B 1指標 25%</p> <p>C 1指標 25%</p> </div>	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
44 自主防災組織の組織率	%	86.9	90.0	89.4	88.5	C	27位 (2位)	—	—
45 刑法犯認知件数(千人当たり)	件	◎2.76	2.40	2.48	2.07	A	2位 (2位)	2位 (2位)	→ (→)
46 交通事故発生件数(千人当たり)	件	◎1.58	1.20	1.28	1.29	B	2位 (1位)	4位 (1位)	↓ (→)
47 食中毒の発生人数(10万人当たり)	人	13.7	13.0	13.2	1.3	A	30位 (5位)	4位 (2位)	↑ (↑)

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

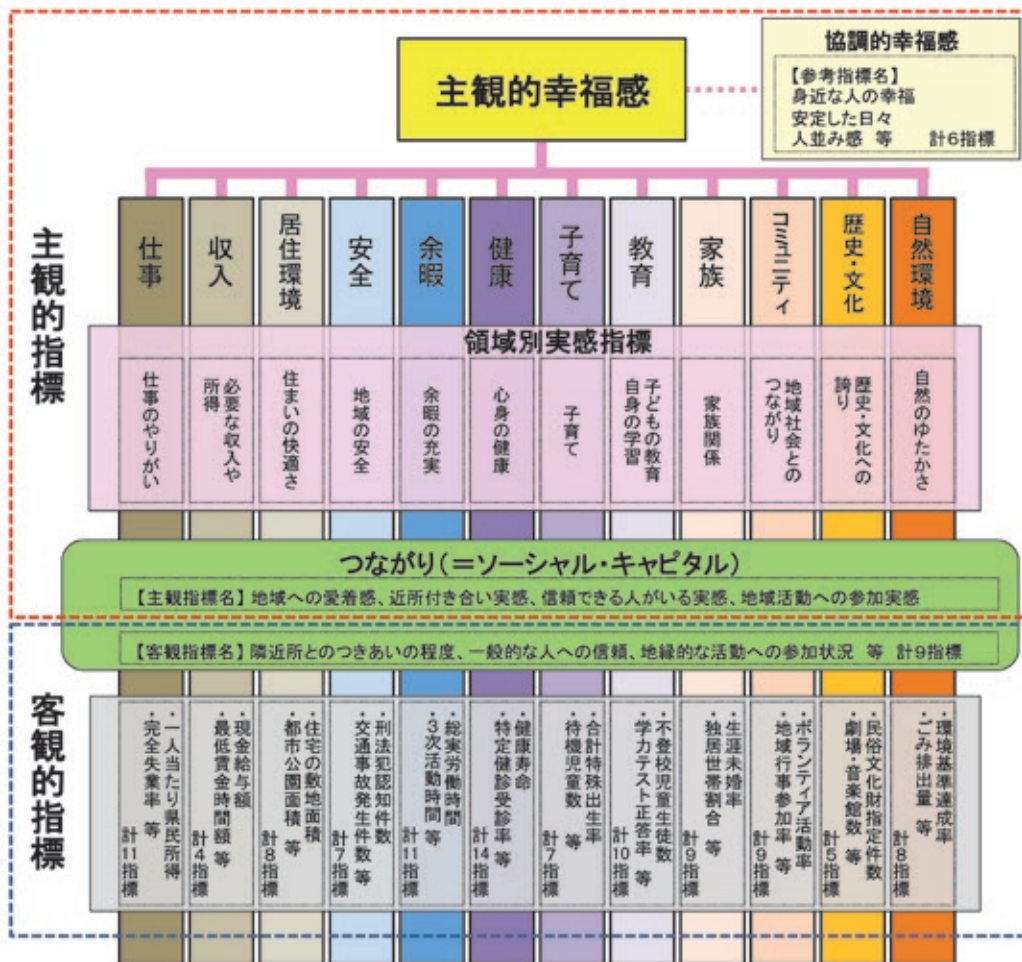
調査項目 お住まいの 地域は安全だと 感じますか	実感平均値		
	基準年[H31]	実績値[R4]	比較
	3.82	3.72	低下

コラム

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画においては、県民や岩手県に関わる人々の幸福を守り育てるため、10の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この10の政策分野やいわて幸福関連指標の設定に当たっては、県民の「幸福」についての確に把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標研究会」において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。



【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会

VI 仕事・収入



農林水産業やものづくり産業などの
活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手

実感 「仕事のやりがい」、「必要な収入や所得」は、ともに低下しました。

指標 「一人当たり県民所得」、「総実労働時間【再掲】」、「高卒者の県内就職率【再掲】」は **B**、
「正社員の有効求人倍率」は **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



未来のワタシゴト創造プロジェクト

県内の高校生が、知事や県内企業等との交流を通じ、岩手で働くことについて考えるワークショップを実施しました。



IWATE FOOD & CRAFT AWARD 2022

今年で50年目となる県産品事業者の新商品等の開発促進や商品力向上を図るコンクールを開催しました。



「北東北三県大型観光キャンペーン」の開催

北東北三県大型観光キャンペーンの開催を通じ、「世界遺産」や「夏祭り」、「食」等をテーマにした情報発信等を行い、誘客拡大を進めました。



いわて林業アカデミー

いわて林業アカデミーにおいて、将来的に林業経営体の中核となり得る現場技術者を育成しました。



「全国和牛能力共進会」優等賞3席

第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会特別区において、県立水沢農業高等学校が、全国3位にあたる優等賞3席を受賞しました。



知事によるカナダ・トップセールス

在カナダ日本国大使公邸で岩手県の豊かな食材の魅力をもPRするレセプションを開催しました。

今後の取組方向

- コロナ禍により影響を受けた産業の回復を図るとともに、ものづくり産業の一層の集積、中小企業者の経営課題の解決、魅力的な観光地域づくり、農林水産業における経営体の育成や高付加

価値化、産業DXの推進等、産業政策を総合的に展開します。

- 原油や資材価格の高騰等により影響を受けている中小企業者や農林漁業者等に対し、市町村や関係団体等と連携した支援に取り組みます。
- 「いわてで働こう推進協議会」を中心として、若者や女性の県内就業やU・Iターンの取組を推進し、人材の確保を図ります。
- 中小企業者のGX*やDXを支援し、社会経済情勢の変化に対応した経営力の強化や生産性の向上を促進します。
- 市場の需要に応じた水稻・麦・野菜等の生産、スマート技術を活用した農林水産業のDX、計画的な再造林等の推進、サケ・マス等の海面養殖などの取組等を推進し、収益力の高い「食料・木材供給基地」づくりを推進します。

*GX:グリーン・トランスフォーメーション。化石燃料中心の経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行させることにより、経済社会システム全体を変革すること。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

仕事・収入分野の評価結果	評価の説明
D	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 14 指標は、達成度A、Bの指標が6指標 (42%)、達成度Dの指標が8指標 (57%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「仕事のやりがい」、「必要な収入や所得」とともに低下しました。 ● この分野の取組状況は、地域の産業・雇用に好循環をもたらすものづくり産業の振興や収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくる取組が進みましたが、地域経済を支える中小企業の振興や地域経済に好循環をもたらす観光産業を盛んにする取組については遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「いわてで働こう推進協議会」において、各構成団体が、それぞれ県内就職等を支援するなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Dと判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	

達成度	指標数	割合
A	3	21%
B	3	21%
D	8	57%

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
48 一人当たり県民所得の水準 ^{*1}	%	②88.7	②90.0	①90.0	①87.4	B	—	—	—
49 正社員の有効求人倍率	倍	0.84	1.03	1.00	0.88	D	35位 (5位)	34位 (6位)	↗ (↘)
50 総実労働時間(年間)【再掲】	時間	1,858.8	1,720.8	1,748.4	1,761.6	B	46位 (5位)	44位 (3位)	↗ (↗)
51 完全失業率	%	2.1	1.6	1.7	2.4	D	13位 (2位)	15位 (2位)	↘ (↗)
52 高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	74.1	B	39位 (5位)	—	—

指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
53 従業者一人当たりの付加価値額	千円	⑳5,983	㉑6,164	㉒6,103	㉓5,717	D	38位 (4位)	37位 (4位)	↗ (→)
54 開業率※2	%	⑳3.2	㉑3.5	㉒3.4	㉓3.2	D	44位 (5位)	44位 (4位)	→ (↗)
55 従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	⑳27.8	㉑29.2	㉒28.9	㉓29.6	A	38位 (4位)	37位 (4位)	↗ (→)
56 観光消費額	億円	1,816.4	2,028.1	1,985.8	1,258.9	D	(5位)	—	—
57 農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	⑳3,990	㉑4,510	㉒4,400	㉓5,312	A	—	—	—
58 林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	⑳4,450	㉑4,560	㉒4,540	㉓4,377	D	—	—	—
59 漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	⑳4,340	㉑4,540	㉒4,500	㉓4,179	D	—	—	—
60 農林水産物の輸出額	億円	28.2	36.0	34.3	43.0	A	—	—	—
61 グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,216	1,204	1,090	D	—	—	—

※1 全国を100とした標準 ※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
18 非正規職員・従業員率	%	35.7	—	5年ごとの公表
19 雇用人一人当たり雇用人報酬	千円	⑳4,037	①4,043	—
20 現金給与総額[5人以上、毎月]	円	277,009	282,811	—
21 農業産出額	億円	⑳2,609	②2,741	—
22 林業産出額	千万円	⑳2,015	②1,782	—
23 漁業産出額	千万円	⑳3,605	②3,057	—
24 製造品出荷額	億円	⑳23,717	②24,943	—
25 ものづくり関連分野の製造品出荷額	億円	⑳15,964	②16,830	—
26 食料品製造品出荷額	億円	⑳3,660	②3,769	—
27 水産加工品製造品出荷額	億円	⑳729	—	—
28 事業所新設率	%	⑳~㉑16.7	—	—

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
仕事にやりがいを感じますか



調査項目
必要な収入や所得が得られていると感じますか



VII 歴史・文化



豊かな歴史や文化を受け継ぎ、
愛着や誇りを育んでいる岩手

実感 「歴史・文化への誇り」は、横ばいとなりました。

指標 「国・県指定文化財件数」は **C**、「世界遺産等の来訪者数」は **D** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



世界遺産出前授業

県内の子どもたちに、本県の3つの世界遺産の価値を伝え、郷土への愛情と誇りが高まるよう、世界遺産出前授業を開催しました。



教員現地研修会

世界遺産の価値や郷土の歴史、文化について子どもたちの理解が深まるよう、教員を対象とした研修会を開催しました。



県立平泉世界遺産 ガイダンスセンター

「平泉」の価値を広く世界中に伝え、後世へ継承するための拠点となるガイダンスセンターが開館1周年を迎えました。



3つの世界遺産パネル巡回展

本県が有する3つの世界遺産の価値や魅力を発信するため、県内外でパネル巡回展を開催しました。



岩手県民俗芸能フェスティバル

本県の伝統文化を生かした交流や民俗芸能の魅力を発信するため、オンライン配信を取り入れ「岩手県民俗芸能フェスティバル」を開催しました。



「文化財保存活用地域計画」 策定への支援

文化財の保存、活用のため市町村が設置する協議会に、県も委員として参加し、「文化財保存活用地域計画」の策定を支援しました。

今後の取組方向

- 世界遺産等の価値を共有し、広めるため、保存管理計画に基づく適切な保存管理や県民の理解増進などに取り組めます。

- 世界遺産を活用した人的・文化的交流を図るため、平泉世界遺産ガイドンスセンターを「平泉の文化遺産」の周遊・魅力発信の拠点として活用するとともに、本県の3つの世界遺産及び関連資産を有する地域間の連携・交流による一体的な取組を推進します。
- 県民の郷土愛を醸成するため、本県が誇る民俗芸能に触れる機会の創出や情報発信により、伝統文化への理解を深め、次世代へ受け継ぐ取組を推進します。
- 地域に伝承されてきた文化財を後世に伝えていくため、市町村と連携し、文化財の適切な保存・継承に取り組みます。
- 地域活性化を図るため、地域の偉人や歴史、様々な文化財や多種多様な民俗芸能、食などの伝統文化や観光資源等を活用し、人的・経済的な交流を推進します。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

歴史・文化分野の評価結果	評価の説明
C	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標3指標は、達成度Bの指標が1指標(33%)、達成度C、Dの指標が2指標(66%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「歴史・文化への誇り」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、世界遺産の保存と活用や、伝統文化が受け継がれる環境をつくり、交流を広げる取組に遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、「平泉の文化遺産」の世界遺産拡張登録に向けて、関係市町において遺跡の調査等が進められています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度 	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R3)	実績値(R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
62 世界遺産等の来訪者数	千人	927	950	937	417	D	—	—	—
63 国、県指定文化財件数	件	565	581	577	574	C	31位(3位)	31位(3位)	→ (→)
64 民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	393	B	—	—	—

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目
地域の歴史や文化に誇りを感じますか

実感平均値

基準年[H31]

3.28

実績値[R4]

3.27

比較

横ばい

VIII 自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、
自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手



実感 「自然の豊かさ」は横ばいで、一貫して高い水準にあります。

指標 「ハヤチネウスユキソウ個体数」、「再生可能エネルギーによる電力自給率」は **A**、「イヌワシつがい数」は **B**、「自然公園の利用者数」は **C** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



水生生物調査

小学生が川の生き物を調べて水のきれいさを判定する水生生物調査に講師派遣するなど、開催を支援しました。



三鉄ジオトレイン

三陸ジオパーク推進協議会、三陸鉄道株式会社との連携により、地域住民等がジオパークの見どころをめぐる「三鉄ジオトレイン」を実施しました。



いわてごみゼロ・3R推進 ポスターコンクール

県内小・中学生から3Rや海洋ごみに関するポスターを募集し、優秀作品の展示等による普及啓発を行いました。



青森県境産業廃棄物不法投棄 現場の状況

青森県境産業廃棄物不法投棄事案において汚染された一部土壌や地下水の浄化作業を終了し、令和4年度で原状回復を完了しました。



地球温暖化対策出前授業

次世代を担う子どもたちに、地球温暖化の現状や身近に取り組める温暖化対策等を伝えるため、知事による出前授業を実施しました。



県有林J-クレジットの販売

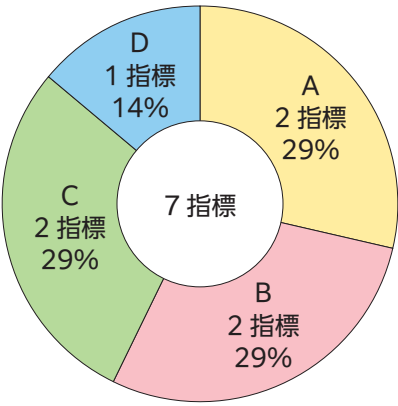
県有林J-クレジットを販売し、企業等のカーボン・オフセットに役立てていただきました。

今後の取組方向

- 三陸ジオパークを活用した学習会や自然公園での体験活動の実施など、本県の優れた自然環境を次世代に引き継いでいくための取組を推進します。
- シカやツキノワグマなどによる被害抑制のため、市町村や関係団体等と連携し、野生鳥獣の科学的・計画的な管理に取り組みます。
- 3Rを基調とするライフスタイルの定着や環境に配慮した事業活動を促進するため、市町村と連携を図りながら、県民参加型の取組を進めるとともに、地域の実情に応じたごみ減量化施策の支援に取り組みます。
- 地球温暖化への対応を地域振興、産業振興や住民生活の質の向上の機会と捉え、家庭、産業、業務、運輸等の各部門における地域経済と環境に好循環をもたらす脱炭素社会の形成に向け、GXを推進します。
- 2050年度までの温室効果ガス排出量の実質ゼロの実現のため、排出削減目標の達成に向けて県民運動を展開するとともに、脱炭素化に取り組む市町村を積極的に支援します。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

自然環境分野の評価結果	評価の説明																		
<div style="font-size: 2em; font-weight: bold; color: green; margin-bottom: 10px;">B</div> <div style="background-color: #006633; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">いわて幸福関連指標の達成度</div>  <table border="1" style="margin-top: 10px; width: 100%; text-align: center;"> <caption>指標達成状況</caption> <thead> <tr> <th>達成度</th> <th>指標数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>2</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>1</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	達成度	指標数	割合	A	2	29%	B	2	29%	C	2	29%	D	1	14%	合計	7	100%	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が4指標（58%）、達成度C、Dの指標が3指標（43%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「自然の豊かさ」が横ばいで、一貫して高い水準にあります。 ● この分野の取組状況は、多様で優れた環境を守り次世代に引き継ぐための取組や、地球温暖化防止に向け低炭素社会の形成を進める取組が進みましたが、循環型地域社会の形成に関する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、令和4年9月現在18市町村が「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」を表明し、再生可能エネルギーの導入促進などに積極的に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。
達成度	指標数	割合																	
A	2	29%																	
B	2	29%																	
C	2	29%																	
D	1	14%																	
合計	7	100%																	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

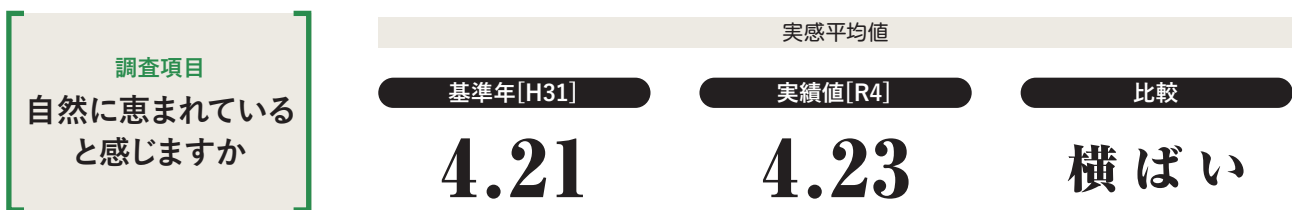
指標名	単位	現状値 (H29)	計画 目標値 (R4)	年度 目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
65 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	29	29	29	26	B	—	—	—
66 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(ハヤチネウススキソウ個体数)	株	667	667	667	986	A	—	—	—
67 自然公園の利用者数*	千人	466	470	470	339	C	—	—	—
68 公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	95.7	B	—	—	—
69 再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	37.0	36.0	38.6	A	—	—	—
70 一般廃棄物の最終処分量	千t	②40.6	③35.8	②36.7	②37.8	C	16位 (2位)	16位 (3位)	→ (↓)
71 一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	②501	③465	②474	②520	D	14位 (1位)	17位 (1位)	↓ (→)

* 自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
29 森林面積割合	%	②74.9	—	5年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]



IX 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手



指標 「河川整備率」、「緊急輸送道路の整備延長」は、ともに **A** となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



海のフィールド学習in大船渡

沿岸地域の小学生を対象に、県内海洋研究機関の講師によるフィールド学習を実施しました。



デジタル技術を使った東日本大震災津波伝承館の遠隔見学

ローカル 5G 基地局やアバターロボットなどのデジタル技術を活用し、神戸市からの伝承館の見学が行われました。



砂防堰堤

令和元年台風第 19 号で土石流被害が発生した釜石市の尾崎白浜地区において、住民の生命・財産を守るための砂防堰堤が完成しました。



いわてサイクルステーション

障害福祉施設が県産木材を活用して製作したサイクルラックを設置した道の駅むろねを、いわてサイクルステーションに登録しました。



ブロックに繁茂する海藻

アワビ等の餌となる藻場を回復させるため、ブロックの投入等による藻場の造成に取り組みました。



高校生との協働による橋梁点検

将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成を推進するため、高校生との協働による橋梁点検に取り組みました。

今後の取組方向

- 各分野のDXを推進するため、5Gなどデジタル基盤の整備を推進するとともに、県民のインターネットの利用率やデジタルリテラシーの向上を図ります。
- 市町村におけるデジタル技術を活用した新たな住民サービスの充実支援などに取り組みます。
- 自然災害から県民の暮らしを守るため、「流域治水」の考え方を踏まえ、河川改修や防災施設の整備などのハード対策と、災害関連情報の充実や発信の強化などソフト施策を効果的に組み合わせた防災・減災対策を推進します。
- 物流の基盤となる道路や主要な観光地を結ぶ道路の整備、農林水産業の生産基盤の整備、広域的なサイクリングルートを整備を推進します。
- ポートセールスを展開するなど県内港湾への利用転換を図るとともに、いわて花巻空港における国際線の運航に対応した受入態勢の強化などに取り組みます。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

社会基盤分野の評価結果	評価の説明
B	
いわて幸福関連指標の達成度	
<p>5 指標</p> <p>A 3 指標 60%</p> <p>B 1 指標 20%</p> <p>D 1 指標 20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標5指標は、達成度A、Bの指標が4指標(80%)、達成度Dの指標が1指標(20%)でした。 ● この分野の取組状況は、安全・安心を支える社会資本の整備や生活を支える社会資本を良好に維持管理し、次世代に引き継ぐ取組が進みましたが、科学・情報技術を活用できる基盤を強化する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、国等において、三陸沿岸道路等高規格道路の整備が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(H29)	計画目標値(R4)	年度目標値(R3)	実績値(R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)			
							H29	R3	比較	
72	モバイル端末(スマートフォン)の人口普及率	%	51.5	78.1	72.7	61.6	D	42位(3位)	47位(6位)	↓(↓)
73	河川整備率	%	48.9	51.3	50.8	51.9	A	(1位)	(1位)	→
74	緊急輸送道路の整備延長	km	—	38.1	25.9	32.5	A	—	—	—
75	港湾取扱貨物量	万t	606	711	623	506	B	35位(5位)	—	—
76	社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	③0413	413	413	424	A	—	—	—



X 参画

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

指標 「障がい者の雇用率」、「男性の家事時間割合【再掲】」は **A**、「高齢者のボランティア活動比率」は **B**、「労働者総数に占める女性の割合」は **D**となりました。

令和4年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



いわて男女共同参画社会づくり表彰

男女共同参画の推進に向けた機運の醸成を図るため、男女共同参画社会づくりに功績のあった個人・団体を表彰しました。



女性農林漁業者が参加した「むら・もり・うみフォーラム」

男女共同参画推進を阻む要因にもなっている無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、女性農林漁業者等が気づきと対応を学びました。



いわて若者カフェ「カフェミーティング」

若者の主体的な活動を活性化させるため、県内で活躍するゲストを招き、講話と参加者との意見交換をハイブリッド型配信で行いました。



いわて女性活躍認定企業等の認定

女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業等を「いわて女性活躍認定企業等」として認定しました。



特別支援学校と農家の体験学習会

障がい者の就労の場の拡充による社会参加促進や工賃向上に向けた取組に対する理解を深めるため、体験学習会を開催しました。



社会のニーズに対応したNPO等の活動

地域の生産者への栽培に関する講習会や食材の魅力発信を通じた地域活性化の支援等、地域課題の解決に取り組むNPO等の活動を支援しました。

今後の取組方向

- 関係団体と連携し、いわて女性活躍企業等認定制度の更なる普及拡大や経営者の意識改革に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた企業等の取組を支援するなど、女性が活躍できる職場環境づくりを推進します。

- 若者の発表や交流等により、いわての未来づくりへの参画意識を高めるとともに、地域をけん引する若者の人材育成につながるよう県内全域で若者が相談支援を受けられる環境づくりを進めます。
- いわて県民情報交流センターを拠点に、市民活動の事例やボランティア活動の情報を発信することで市民活動への参加を促すとともに、NPO活動交流センターと中間支援NPOとの連携により、地域の実情に応じた多様な主体の連携・協働のネットワークづくりに取り組みます。

令和4年度の評価結果

[政策評価の結果]

参画分野の評価結果	評価の説明
B	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標6指標は、達成度A、Bの指標が4指標（66%）、達成度Dの指標が2指標（33%）でした。 ● この分野の取組状況は、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくる取組や幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進する取組が進みました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、金融機関、中間支援NPO、税理士会、行政書士会により構成する「いわてソーシャルビジネスサポートネットワーク」において、地域課題解決に取り組むNPO法人等の支援が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。
いわて幸福関連指標の達成度	
<p>6指標</p> <p>A 2指標 33%</p> <p>B 2指標 33%</p> <p>D 2指標 33%</p>	

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R3)	実績値 (R3)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							H29	R3	比較
77 労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	40.7	40.1	37.2	D	17位 (4位)	24位 (5位)	↓ (↓)
78 障がい者の雇用率	%	2.16	2.30	2.30	2.37	A	16位 (1位)	17位 (1位)	↓ (→)
79 高齢者のボランティア活動比率	%	—	28.9	28.8	25.3	B	—	—	—
80 共働き世帯の男性の家事時間割合(週平均)*【再掲】	%	34.2	40.0	39.0	39.2	A	—	—	—
81 審議会等委員に占める女性の割合	%	◎37.4	40.0	40.0	39.9	B	17位 (2位)	—	—
82 ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	20.6	20.2	15.6	D	—	—	—

※ 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(H29)	R3の値	備考
30 管理職に占める女性の割合	%	12.3	—	5年ごとの調査



第3部

データ編



| 岩手県 | 八幡平市 | 八幡平 |

いわて幸福白書2023



○政策分野の評価

- ・A B C Dの4段階で判定しています。
- ・いわて幸福関連指標の状況、県民意識の状況及び政策分野を取り巻く状況を踏まえ、総合的に評価を行っています。
- ・[R1]は、令和元年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和2年度の評価結果を、
- ・[R2]は、令和2年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和3年度の評価結果を、
- ・[R3]は、令和3年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和4年度の評価結果を、それぞれ記載しています。

○達成度

各年度の目標値に対する達成率(%)に応じて下の表のとおり判定しています。

達成度	目標達成率
達成【A】	100%以上
概ね達成【B】	80%以上100%未満
やや遅れ【C】	60%以上80%未満
遅れ【D】	60%未満

目標達成率の計算式

- ①通常の指標(H29現状値から数値を上げる目標の場合):
(年度実績値 - H29現状値) / (年度目標値 - H29現状値) × 100
 - ②マイナス指標(H29現状値から数値を下げる目標の場合):
(H29現状値 - 年度実績値) / (H29現状値 - 年度目標値) × 100
 - ③維持指標等(H29現状値等を維持する目標等の場合): (年度実績値) / (年度目標値等) × 100
- ※現状値がない指標など、この計算式により難しい場合は、次の計算式により算出しています。
目標達成率 = (年度実績値) / (年度目標値) × 100

○補足

- ※▼印の指標は、H29現状値から数値を下げることを目標とするものです。
- ※◆印の指標は、H29現状値等を維持することを目標とするものです。
- ※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
- ※実績値が確定していないなどの理由で、達成度の判定ができない又は適当でない指標は「-」と表示しています。

政策分野	政策分野の評価			指標	指標名	単位	指標の状況															出典								
	R1	R2	R3				現状値(H29)	年度目標値			計画目標値(R4)	実績値			達成度			進捗率(対R4目標)	全国順位				東北順位							
								R1	R2	R3		R1	R2	R3	R1	R2	R3		H29との比較	H29との比較	H29との比較									
I 健康・余暇	C	C	B	1	健康寿命 [平均自立期間]	年	男 79.32	79.83	80.09	80.34	80.60	79.63	79.80	80.03	C	C	C	55.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ	
				2		年	女 83.96	84.31	84.49	84.66	84.84	84.18	84.31	84.59	C	C	B	71.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
				3	▼がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数 [10万人当たり]	人	男 305.1	295.9	288.4	281.0	273.8	298.2	293.1	283.4	C	C	B	69.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	人口動態統計(厚生労働省)
				4		人	女 158.7	147.5	143.5	139.5	135.7	157.7	156.2	154.5	D	D	D	18.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	人口動態統計(厚生労働省)
				5	▼自殺者数 [10万人当たり]	人	21.0	19.0	18.0	17.0	16.0	20.5	21.2	16.2	D	D	A	96.0	46	46	47	21	上昇	5	5	6	1	上昇	人口動態統計(厚生労働省)	
				6	地域包括ケア関連 (元気な高齢者割合) ※全国を100とした水準	%	98.71	98.77	98.80	98.83	98.86	99.07	99.26	99.38	A	A	A	446.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	介護保険事業状況報告(厚生労働省)
				7	地域包括ケア関連 (在宅医療連携拠点の事業区域数)	箇所	16	17	20	24	27	20	20	23	A	A	B	63.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ
				8	余暇時間【一日当たり】 ※休日を含む1週間の平均	分	373	378	382	386	390	372	370	372	D	D	D	-5.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	社会生活基本調査(総務省)、県民意識調査(岩手県)
				9	県内の公立文化施設における催事数 ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な12施設の催事数	件	1,316	1,344	1,358	1,372	1,385	1,261	583	997	D	D	D	-462.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
				10	スポーツ実施率	%	61.7	63.5	64.0	64.5	65.0	63.5	65.3	65.4	A	A	A	112.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
				11	生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	40.2	41.2	42.2	43.2	44.2	42.7	44.0	46.1	A	A	A	147.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)
II 家族・子育て	B	B	B	1	健康寿命 [日常生活に制限のない期間]	年	男 71.85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究		
				2		年	女 74.46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	厚生労働科学研究	
				3	喫煙率	%	22.6	-	-	-	-	-	20.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	国民生活基礎調査(厚生労働省)
				12	合計特殊出生率		1.47	1.51	1.53	1.55	1.58	1.35	1.33	1.30	D	D	D	-154.5	33	37	36	36	下降	2	4	3	4	下降	人口動態統計(厚生労働省)	
				13	▼待機児童数 [4月1日時点]	人	178	97	49	0	0	175	58	12	D	B	B	93.3	24	28	25	19	上昇	4	4	4	4	横ばい	保育所等利用待機児童数調査(厚生労働省)	
				14	◆地域の行事に参加している生徒の割合 [中学生]	%	63.7	64.0	64.0	64.0	64.0	70.4	-	62.9	A	-	B	69.4	2	3	-	3	下降	1	1	-	1	横ばい	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	
15	▼総実労働時間 [年間]	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	1,778.4	1,761.6	B	B	B	70.4	46	47	47	44	上昇	5	6	6	3	上昇	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)					
16	共働き世帯の男性の家事時間割合 [週平均] ※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	36.5	39.2	A	C	A	86.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)				
17	犬、猫の返還・譲渡率	%	98.0	98.4	98.6	98.8	99.0	100.0	100.0	100.0	A	A	A	200.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ				

政策分野	政策分野の評価			指標	指標名	単位	現状値 (H29)	指標の状況																出典														
	R1	R2	R3					いれて幸福関連指標	参考指標	年度目標値			計画目標値 (R4)	実績値			達成度			進捗率 (対R4目標)	全国順位				東北順位													
										R1	R2	R3		R1	R2	R3	R1	R2	R3		H29との比較	H29	R1		R2	R3	H29との比較											
II 家族・子育て	B	B	B		18	犬、猫の返還・譲渡率	%	猫 93.5	94.8	95.5	96.1	96.8	98.8	100.0	98.8	A	A	A	160.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ			
					4	待機児童数 [10月1日時点]	人	681	-	-	-	-	467	127	118	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	保育所等利用待機児童数調査(厚生労働省)				
					5	共働き男性の家事時間	分	100	-	-	-	-	128	92	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)				
					6	共働き女性の家事時間	分	292	-	-	-	-	314	252	319	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県) 県民生活基本調査(岩手県)				
					7	生涯未婚率	%	男 26.16	-	-	-	-	-	-	-	29.61 ^②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)			
					8		%	女 13.07	-	-	-	-	-	-	-	16.70 ^②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	国勢調査(総務省)			
III 教育	B	B	B		19	意欲を持って自ら進んで学ぼうとする児童生徒の割合	%	小 80.9	81.9	82.9	83.9	84.9	82.1	-	82.5	A	-	D	40.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)			
					20		%	中 77.2	78.2	79.2	80.2	81.2	78.4	-	85.4	A	-	A	205.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
					21	授業で、自分の考えを深めたり広げたりしている児童生徒の割合	%	小 80.7	81.7	82.7	83.7	84.7	78.9	-	83.0	D	-	C	57.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
					22		%	中 80.0	81.0	82.0	83.0	84.0	77.8	-	83.5	D	-	A	87.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
					23	人が困っているときは、進んで助けようと思う児童生徒の割合	%	小 66	67	68	69	70	69	69	68	A	A	C	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ	
					24		%	中 64	65	66	67	68	65	68	67	A	A	A	75.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ		
					25		%	高 57	58	59	60	61	49	-	62	D	-	A	125.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県学習定着度状況調査、県教育委員会調べ	
					26	自己肯定感を持つ児童生徒の割合	%	小 82.3	83.0	83.5	84.0	85.0	80.5	-	76.4	D	-	D	-218.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	
					27		%	中 76.9	77.0	78.0	79.0	80.0	72.6	-	76.2	D	-	D	-22.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	
					28	体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合	%	小男 73.6	74.0	74.0	74.5	75.0	73.1	-	68.9	D	-	D	-335.7	14	9	-	10	上昇	2	2	-	2	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)	
					29		%	◆小女 82.9	83.0	83.0	83.0	83.0	82.2	-	79.1	B	-	B	64.8	9	10	-	8	上昇	2	2	-	2	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)	
					30		%	◆中男 77.7	78.0	78.0	78.0	78.0	75.7	-	74.8	B	-	B	64.3	7	7	-	5	上昇	1	1	-	2	下降	下降	下降	下降	下降	下降	下降	下降	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)	
					31		%	◆中女 91.3	91.5	91.5	91.5	91.5	90.0	-	88.8	B	-	B	65.1	8	12	-	7	上昇	1	1	-	1	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	全国体力・運動能力、運動習慣等調査(文部科学省)	
					32	特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	%	-	62.0	64.0	66.0	68.0	62.0	60.8	63.0	A	B	B	92.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県教育委員会調べ		
					33	◆高卒者の県内就職率	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	71.4	74.1	B	B	B	63.3	39	36	35	-	-	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手労働局調査	
					34	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小 86.5	86.7	87.0	87.5	88.0	84.6	-	82.1	D	-	D	-293.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
					35		%	中 73.2	74.0	74.5	75.5	76.0	73.1	-	72.8	D	-	D	-14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)
					36	県内大学等卒業者の県内就職率	%	45.3	48.5	49.5	50.5	51.5	43.8	45.3	47.0	D	D	D	27.4	-	-	-	-	-	1	2	2	1	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	横ばい	岩手労働局調査	
					9	学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小国語 42	-	-	-	-	34	-	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)	
				10		%	小算数 50	-	-	-	-	48	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
				11		%	中国語 45	-	-	-	-	44	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
				12		%	中数学 54	-	-	-	-	53	-	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全国学力・学習状況調査(文部科学省)		
				13	不登校児童生徒数 [千人当たり]	人	小 3.4	-	-	-	-	5.5	6.2	8.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)	
				14		人	中 25.9	-	-	-	-	31.1	33.5	39.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)	
				15		人	高 13.1	-	-	-	-	13.0	12.9	19.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省)	

政策分野	政策分野の評価	指標	指標の状況																		出典													
			R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3	R1	R2	R3														
																						指標名	単位	現状値 (H29)	年度目標値			計画目標値 (R4)	実績値			達成度		
IV 居住環境・コミュニティ	C C D	37	県外からの移住・定住者数	人	1,091	1,320	1,452	1,597	1,757	1,190	1,318	1,584	D	C	B	74.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県労工労働観光部調べ
		38	汚水処理人口普及率	%	80.8	82.7	83.9	85.2	86.5	82.6	83.6	84.4	B	B	B	63.2	35	-	35	35	横ばい	5	-	5	5	横ばい							県泉土整備部調べ	
		39	◆三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	16.1	10.5	10.2	B	C	D	52.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ	
		40	地縁的な活動への参加割合	%	36.9	39.0	40.0	41.5	43.0	35.7	30.1	33.3	D	D	D	-59.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(岩手県)	
		41	在留外国人数 [10万人当たり]	人	527.0	612.6	656.5	702.1	748.6	661.3	637.2	597.0	A	B	D	31.6	45	-	45	45	横ばい	4	-	4	4	横ばい							在留外国人統計(法務省)	
		42	(文化施設入場者数) ※岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数	千人	168	170	172	174	176	185	161	33	A	D	D	-1687.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ	
		43	(スポーツ施設入場者数) ※◆県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数	万人	805	806	806	806	806	757	552	486	B	C	C	55.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ		
		16	三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	2,195	-	-	-	-	1,978	1,269	1,214	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県ふるさと振興部調べ	
		17	持ち家比率	%	68.9	-	-	-	-	-	-	69.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	住宅・土地統計調査(総務省)	
V 安全	C B C	44	自主防災組織の組織率	%	86.9	88.1	88.7	89.4	90.0	87.9	88.5	88.5	B	B	C	54.8	27	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	消防防災・震災対策現況調査(消防庁)		
		45	▼刑法犯認知件数 [千人当たり]	件	2.76	2.64	2.56	2.48	2.40	2.47	2.08	2.07	A	A	A	191.7	2	2	1	2	横ばい	2	2	1	2	横ばい						県警察本部調べ		
		46	▼交通事故発生件数 [千人当たり]	件	1.58	1.47	1.37	1.28	1.20	1.59	1.35	1.29	D	A	B	76.3	2	6	4	4	下降	1	2	1	1	横ばい						県警察本部調べ		
		47	▼食中毒の発生人数 [10万人当たり]	人	13.7	13.5	13.4	13.2	13.0	2.3	2.3	1.3	A	A	A	1771.4	30	3	6	4	上昇	5	2	1	2	上昇						食中毒統計資料(厚生労働省)		
VI 仕事・収入	C B D	48	◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準	%	88.7	90.0	90.0	90.0	90.0	86.9	88.8	87.4	B	B	B	73.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民経済計算年報(内閣府経済社会総合研究所)		
		49	正社員の有効求人倍率	倍	0.84	0.92	0.96	1.00	1.03	0.86	0.73	0.88	D	D	D	21.1	35	41	39	34	上昇	5	6	6	6	下降						一般職業紹介状況(岩手労働局)		
		50	▼総実労働時間 [年間]【再掲】	時間	1,858.8	1,803.6	1,776.0	1,748.4	1,720.8	1,812.0	1,778.4	1,761.6	B	B	B	70.4	46	47	47	44	上昇	5	6	6	3	上昇						毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)		
		51	▼完全失業率	%	2.1	1.9	1.8	1.7	1.6	2.1	2.4	2.4	D	D	D	-60.0	13	23	24	15	下降	2	2	2	2	横ばい						労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)		
		52	◆高卒者の県内就職率【再掲】	%	65.8	84.5	84.5	84.5	84.5	68.5	71.4	74.1	B	B	B	63.3	39	36	35	-	-	5	5	5	-	-						岩手労働局調査		
		53	従業員一人当たりの付加価値額	千円	5,983	5,983	6,043	6,103	6,164	5,727	5,487	5,717	B	D	D	-147.0	38	41	42	37	上昇	4	5	6	4	横ばい						企業活動基本調査(経済産業省)		
		54	開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率	%	3.2	3.2	3.3	3.4	3.5	3.2	2.9	3.2	A	D	D	0.0	44	40	43	44	横ばい	5	3	4	4	上昇						雇用保険事業年報(厚生労働省)		
		55	従業員一人当たりの製造品出荷額	百万円	27.8	28.4	28.7	28.9	29.2	31.0	30.0	29.6	A	A	A	128.6	38	-	35	37	上昇	4	-	4	4	横ばい						工業統計調査(経済産業省)		
		56	観光消費額	億円	1,816.4	1,901.1	1,943.4	1,985.8	2,028.1	1,754.6	1,142.3	1,258.9	D	D	D	-263.3	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-						県観光入込客統計		
		57	農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	3,990	4,190	4,290	4,400	4,510	4,601	4,999	5,312	A	A	A	254.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ	
		58	林業就業体一人当たりの木材生産産出額	千円	4,450	4,490	4,510	4,540	4,560	5,030	5,070	4,377	A	A	D	-66.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	生産林業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ		
		59	漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	4,340	4,420	4,460	4,500	4,540	4,833	4,580	4,179	A	A	D	-80.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	漁業産出額統計(農林水産省)、県農林水産部調べ		
		60	農林水産物の輸出入額	億円	28.2	31.1	32.7	34.3	36.0	36.7	36.0	43.0	A	A	A	189.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岩手県貿易等実態調査(県商工、日本貿易振興機構)		
		61	グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,156	1,180	1,192	1,204	1,216	1,184	1,048	1,090	A	D	D	-110.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県農林水産部調べ		
		18	非正規職員・従業員率	%	35.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)	
		19	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	4,037	-	-	-	-	-	4,140	4,043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民経済計算(総務省)		
20	現金給与総額 [5人以上、毎月]	円	277,009	-	-	-	-	-	280,218	278,867	282,811	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	毎月勤労統計調査(厚生労働省)			

政策分野	政策分野の評価			指標	指標の状況																			出典					
	R1	R2	R3		指標名	単位	現状値(H29)	年度目標値			計画目標値(R4)	実績値			達成度			進捗率(対R4目標)	全国順位				東北順位						
								R1	R2	R3		R1	R2	R3	R1	R2	R3		H29との比較	H29との比較	H29との比較	H29との比較							
VI 仕事・収入	C	B	D	21	農業産出額	億円	2,609	-	-	-	2,272	2,676	2,741	-	-	-	-	-	10	-	-	-	2	-	-	生産農業所得統計等(農林水産省)			
				22	林業産出額	千円	2,015	-	-	-	1,968	1,925	1,782	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-	農林水産統計(農林水産省)		
				23	漁業産出額	千円	3,605	-	-	-	3,788	3,461	3,057	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	3	-	-	農林水産統計(農林水産省)		
				24	製造品出荷額	億円	23,717	-	-	-	27,272	26,262	24,943	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)	
				25	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	15,964	-	-	-	18,647	17,783	16,830	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)	
				26	食料品製造出荷額	億円	3,660	-	-	-	3,870	3,902	3,769	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)	
				27	水産加工品製造出荷額	億円	729	-	-	-	732	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	工業統計調査(経済産業省)	
				28	事業所新設率	%	16.7	-	-	-	-	13.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス(総務省)	
VII 歴史・文化	B	C	C	62	世界遺産等の来訪者数	千人	927	927	927	937	950	885	444	417	B	D	D	-217.4	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ			
				63	国、県指定文化財件数	件	565	569	573	577	581	568	572	574	C	B	C	56.3	31	30	31	31	横ばい	3	3	3	横ばい	県教育委員会調べ	
				64	◆民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	396	396	396	396	396	405	404	393	A	A	B	75.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ	
VIII 自然環境	B	B	B	65	◆岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	29	29	29	29	29	27	26	B	B	B	68.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境保健研究センター調べ		
				66	◆岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	株	667	667	667	667	667	1,021	971	986	A	A	A	111.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ	
				67	◆自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数	千人	466	470	470	470	470	576	427	339	A	B	C	71.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ	
				68	◆公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	99.1	99.1	99.1	99.1	99.1	98.2	96.5	95.7	B	B	B	73.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ	
				69	再生可能エネルギーによる電力自給率	%	28.0	29.0	35.0	36.0	37.0	34.4	41.7	38.6	A	A	A	117.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ	
				70	▼一般廃棄物の最終処分量	千t	40.6	38.6	37.6	36.7	35.8	41.3	41.3	37.8	D	D	C	58.3	16	17	19	16	横ばい	2	3	3	3	下降	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
				71	▼一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	501	492	483	474	465	506	512	520	D	D	D	-52.8	14	17	17	17	下降	1	1	1	1	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
				29	森林面積割合	%	74.9	-	-	-	-	-	74.6	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	1	-
IX 社会基盤	B	B	B	72	モバイル端末(スマートフォン)の人口普及率	%	51.5	61.9	67.3	72.7	78.1	56.0	58.9	61.6	D	D	D	38.0	42	45	43	47	下降	3	4	2	6	下降	通信利用動向調査(総務省)
				73	河川整備率	%	48.9	49.3	50.0	50.8	51.3	49.3	50.6	51.9	A	A	A	125.0	-	-	-	-	-	1	1	-	1	横ばい	県土整備部調べ
				74	緊急輸送道路の整備延長	km	-	8.2	21.8	25.9	38.1	6.6	25.3	32.5	B	A	A	85.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県土整備部調べ
				75	港湾取扱貨物量	万t	606	596	614	623	711	635	563	506	A	B	B	71.2	35	-	-	-	-	5	-	-	-	-	港湾統計(国土交通省)
				76	◆社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	413	413	413	413	413	413	420	424	A	A	A	76.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県土整備部調べ
X 参画	B	D	B	77	労働者総数に占める女性の割合	%	38.1	39.1	39.6	40.1	40.7	37.2	38.3	37.2	D	D	D	-34.6	17	21	15	24	下降	4	4	4	5	下降	賃金構造基本統計調査(厚生労働省)
				78	障がい者の雇用率	%	2.16	2.20	2.20	2.30	2.30	2.27	2.28	2.37	A	A	A	150.0	16	19	22	17	下降	1	2	2	1	横ばい	障害者雇用状況報告の集計結果(若手労働局)
				79	高齢者のボランティア活動比率	%	-	28.6	28.7	28.8	28.9	26.4	28.1	25.3	B	B	B	87.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県) 県民生活基本調査(若手県)
				80	共働き世帯の男性の家事時間割合【週平均】【再掲】 ※女性の家事時間に対する割合	%	34.2	37.0	38.0	39.0	40.0	41.3	36.5	39.2	A	C	A	86.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県) 県民生活基本調査(若手県)
				81	審議会等委員に占める女性の割合	%	37.4	38.7	40.0	40.0	40.0	35.6	36.9	39.9	D	D	B	96.2	17	-	-	-	-	2	-	-	-	-	県環境生活部調べ
				82	ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	18.6	19.4	19.8	20.2	20.6	15.7	13.5	15.6	D	D	D	-150.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県)
				30	管理職に占める女性の割合	%	12.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)





岩手県政策企画部政策企画課

〒020-8570 盛岡市内丸 10-1

TEL 019-629-5509

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/suishin/1018014/index.html>

